

ごあいさつ

国立大学法人 岡山大学
学長 千葉 喬三



岡山大学は、11 学部、7 研究科等を有する全国屈指の総合大学として中国四国地域における「学都・岡山大学」創成を目指しています。その実現には多様な人材が参画できるダイバーシティ文化、男女共同参画の一層の推進、女性の能力・資質を最大限活用できる環境づくり、女性研究者の支援・育成が極めて重要な課題であることを認識し、教職員の意識改革、諸施策の実施に日々取り組んでまいりました。

幸いにも、平成 21 年度文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」事業に採択され、本学ダイバーシティ推進本部男女共同参画室が中心となり、「学都・岡大発女性研究者が育つ進化プラン」を推進してまいりました。事業採択を機に意識改革・啓発活動を主眼として、各種シンポジウム、交流サロンなどを開催し、更に女性研究者のサポート体制整備、働きやすい職場環境整備を推進してまいりました。今後とも女性研究者支援を強化していきたいと考えております。

今日、我が国の女性研究者に対しては、欧米諸国に比べて十分な環境整備がなされているとは必ずしも言い難い状況にあります。育児、介護、家事等も未だ女性への負担率が高く、女性研究者の研究意欲、研究活動継続を阻害している状況がみられます。本来研究活動においては女性も男性も平等な機会が与えられるべきであり、当然ながらその能力・資質を最大限発揮できる環境整備が求められます。各人のもてる能力・資質を最大限発揮していただくことで、研究のさらなる飛躍が期待され、優れた研究成果の社会への還元が期待できます。

現在、岡山大学が独自に進めているウーマン・テニユア・トラック（WTT）教員制度などの新しい試みや実践、女性研究者支援に対するさまざまな取り組みは、岡山大学にとどまらず全国的にも女性研究者支援に新風を吹き込むものと期待いたします。

これらの支援体制・環境整備は、男女を問わず全ての研究者に対するより良い研究環境整備につながるものであり、岡山大学が「学都」の名に相応しく、研究の進展・飛躍を志す方々の持てる能力・資質を最大限発揮できる環境になるものと確信いたします。

岡山大学の教員、職員、学生が、お互いに連携・協力することで、すべての構成員が一層輝きを増し、世界に羽ばたくことができる環境づくりを今後とも推進いたします。

世界に通用するすばらしいグローバル女性研究者が岡山大学から多数輩出されんことを祈念し、ご挨拶にかえさせていただきます。

はじめに

国立大学法人 岡山大学
ダイバーシティ推進本部
本部長 田中 宏二
(理事・副学長)



多様な人材が参画する共生社会の実現は、今後我が国が真摯に取り組まなければならない重要な課題であります。岡山大学では、性別、年齢、障害の有無、国籍などを超えた多様な構成員の登用の道を拓くとともに、ダイバーシティ文化の醸成に努めております。

少子高齢化が現実のものとして身近に迫った日本では、将来の労働力不足、日本経済の活力低下が危惧されます。このような状況下、女性の一層の社会進出が進み、社会の一翼を担う人材として、更には社会貢献の重要な担い手としての活躍に大きな期待がよせられることは必然的なことでもあります。また、社会の永続的発展には次世代育成が極めて重要であることは明白であります。健全なダイバーシティ文化に根ざす社会、機会均等な男女共同参画社会の実現により、少子高齢化、次世代育成問題を解決しなければなりません。

岡山大学では、平成21年1月ダイバーシティ推進本部及び男女共同参画室を設置し、男女共同参画に関する取り組みを本格的に開始いたしました。平成21年10月に策定した「岡山大学ダイバーシティポリシー」を指針とし、男性も女性も共に、それぞれのもてる資質・能力を十二分に発揮し活躍できる環境整備に努めております。

このような状況下、平成21年度文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」事業で採択された「学都・岡大発 女性研究者が育つ進化プラン」の推進では、学内の意識改革、意識啓発活動を中心に、交流サロン、国際シンポジウム、ニュースレター発行などを行ってまいりました。

また、本学独自の新規事業、“質の高い女性研究者を積極的に雇用し、本学の将来を担う優秀な教員を育成することを目的としたウーマン・テニユア・トラック (WTT) 教員制度”が順調に船出したことは、特筆すべき成果の一つであります。平成22年4月1日付けで4名の優秀な女性教員が採用され、活発な研究・教育活動が始められています。平成21年7月開所の学童保育「かいのき児童クラブ」、10月開所の「ますかつと病児保育ルーム」は、岡山大学の次世代育成支援事業の重要な一角を担い、女性研究者の子育てを強力に支援することが可能となりました。WTT教員及び大学院生を中心とした「おかやまサイエンス・トーク」も高校生対象に平成22年度4回開催され、次世代育成に貢献してまいりました。

岡山大学が、社会の要請に応え、活力ある大学として一層の発展を目指し、世界に誇れる教育・研究環境整備を進めてまいりたいと考えております。

最後に、女性研究者の今後の活躍に大いに期待し、挨拶に代えさせていただきます。

取り組みの主旨

国立大学法人 岡山大学
ダイバーシティ推進本部 男女共同参画室
室長 沖 陽子
(岡山大学大学院環境学研究科 教授)



岡山大学は、大規模総合大学である特性、利点を活かし、加えて中国・四国地域の交通の要衝という地の利を活かし、「学都・岡山大学」として一層の発展を目指しています。

幸いにも、平成 21 年度文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」事業に岡山大学の提案「学都・岡大発 女性研究者が育つ進化プラン」が採択されました。これを受け、岡山大学ダイバーシティ推進本部男女共同参画室が中心となり、「循環型人材育成進化プラン」を遂行し、質の高い女性研究者の雇用・育成と、その持続性を図る仕組みを構築するモデルを「学都・岡山大学」から発信しています。同時に、女性研究者の支援の充実を図っています。

さて、本学の学部生や大学院生の女子学生の比率は決して低くはありません。それなのに本学の女性研究者が少ないのはなぜでしょうか？ 女性研究者が育つ大地の整備がなされていないのでは？ 特に理系においては、女性研究者が抱える困難の克服に対する取組が遅れていました。それに気づいて、プロジェクト「進化プラン」を企画しました。すなわち、戦略的・体系的な改革を目指して「意識改革への挑戦」、「サポート体制の充実」及び「組織改革の実質化」の 3 本の柱を有機的に連携させ、雇用の促進、人材育成、環境整備に取り組むこととしました。

具体的には、理系の学部生、大学院生の女子学生が持つポテンシャルを有効に引き出す得策を駆使することが肝要と考え、彼女達をターゲットとした下記の「雇用・研究サポート体制・持続性」を保証する循環型人材育成進化プランを策定しました。

- (1)女性研究者のニーズに対応すべき「研究サポート体制」の充実。
- (2)「雇用」のチャンスを確保。
- (3)次世代の女性研究者の循環型人材育成が保証される「持続性」システムの構築。

これらの進化プランをスムーズに推進するために、人材登録バンク、相談窓口の設置、交流サロンや情報交換会、研修会等を積極的に開催しております。最も重要な環境整備は周囲の意識改革、そして結婚・出産・育児・介護が安心して行えるシステム改革であると考えています。

次世代を見据えて、女性・男性共に大いなる資質と能力が持続的に開花する環境整備を目指して、本事業を推進しております。今、撒かれた種子が発芽・生長し、立派な実が収穫できると確信しながら・・・、そして広く日本国中に発信できることを祈念しております。

ごあいさつ（岡山大学長）	i
はじめに（ダイバーシティ推進本部長）	ii
取り組みの主旨（ダイバーシティ推進本部 男女共同参画室長）	iii
目 次	iv

I. 「学都・岡大発 女性研究者が育つ進化プラン」の事業概要	1
1. 機関の現状	3
2. 計画構想	3
3. 実施体制・実施内容	4
4. ミッションステートメント	5
5. 年次計画	5
II. 本事業推進体制の整備	7
1. 平成21年度推進体制の整備	9
2. 平成22年度推進体制の整備	13
3. 本事業実施体制のまとめ	18
III. 平成21年度～22年度活動一覧	19
1. 活動日誌	21
2. 男女共同参画室会議議事	27
IV. 平成21年度～22年度活動報告	37
1. 研究サポート体制	39
(1) 人材登録バンクの設置と維持管理	39
① 人材登録バンクの目的	39
② 人材登録バンクシステムの整備状況	39
③ 人材登録バンクシステムの維持管理	40
(2) 研究支援員事業の整備	49
① 研究支援員事業とは	49
② 研究支援員事業の整備	49

③ 研究支援員事業の利用の現状	50
(3) メンター事業の導入	62
① メンター事業の検討.....	62
② メンターの養成.....	63
③ メンタリングに関するセミナー	69
④ メンタリングに関する勉強会	74
(4) 研究スキルアップ講座の実施.....	76
① 外部資金獲得講座	76
② 研究シーズの知的財産化.....	80
2. 調査による実態の把握.....	84
(1) 岡山大学の男女共同参画に関するアンケート調査.....	84
(2) 岡山大学における女性研究者支援に関するニーズ調査	87
(3) 岡山大学における理系大学院生の 研究生の実態およびニーズに関する調査	97
(4) 女性のための設備・施設の整備状況調査	104
3. 意識啓発活動の実施	109
(1) 平成21年度～22年度交流サロン	109
① 平成21年度 第1回 ～意識改革へのスタートライン～	109
② 平成21年度 第2回 私らしく輝く研究者への道 ～ロールモデルと出会い、仲間と語る～	119
③ 平成21年度 第3回 晴れの国における男女共同参画社会の 構築を目指して.....	126
④ 平成22年度 第1回 若い世代へ贈る言葉 共働き、子育て を楽しもう！	134
⑤ 平成22年度 第2回 育児と仕事の両立 ～どんな感じ？何が問題？	138
⑥ 平成22年度 第3回 女性研究者のこれからを考える ～フェミニストセラピー&コミュニティー心理学の観点から～..	142
⑦ 平成22年度 第4回 より良いパートナーになるために 男性って、女性って・・・どう思っているの？	146
(2) 国際シンポジウム.....	152
① プログラム	152
② 実施概要.....	154
③ 来場者へのアンケート結果.....	168
(3) 男女共同参画推進シンポジウム	170

① プログラム	170
② 実施概要.....	170
③ 来場者へのアンケート結果.....	175
(4) 第1回男女共同参画に関する管理職セミナー.....	178
(5) 他機関との協働	182
① アフリカ諸国におけるジェンダー・イシューズの現状.....	182
② 医療人キャリアセンターMUSCAT との協働 ～医療人 GP「女性を生かすキャリア支援計画」を通して (H21年度) ～....	183
③ 医療人キャリアセンターMUSCAT との協働 ～岡山県女性医師キャリアセンター運営事業 「MUSCAT プロジェクト」を通して (H22年度) ～	185
④ おかやま発 Science な女性たち PartIII.....	187
4. 広報活動の実施.....	188
(1) ニュースレター発刊	188
(2) 男女共同参画室ホームページ開設及び現況	196
(3) 岡山大学オープンキャンパス.....	199
(4) 男女共同参画室ロゴマーク	201
(5) 新聞報道等	202
5. 相談窓口の設置.....	209
(1) 女性サポート相談室の概要	209
(2) 活動報告.....	209
① 開設から現在までの経緯.....	209
② 相談室の体制	210
③ 相談員の専門性と役割	211
④ 相談状況.....	211
⑤ キャリアカフェ.....	212
⑥ 女性研究者とのネットワーク構築	214
⑦ 県内外の関係機関とのネットワーク構築.....	215
6. ウーマン・テニユア・トラック教員制度.....	217
(1) ウーマン・テニユア・トラック (WTT) 教員制度の概要.....	217
(2) ウーマン・テニユア・トラック (WTT) 業務推進室の新設	218
(3) WTT 教員選考経過 (第Ⅰ期・第Ⅱ期)	218
(4) WTT 教員募集要項 (第Ⅱ期)	220

(5) WTT 教員選考採用結果（第Ⅰ期・第Ⅱ期）	223
7. 次世代女性研究者育成支援事業ーおかやまサイエンス・トーク	224
(1) おかやまサイエンス・トーク実施概要	224
(2) 第1回 おかやまサイエンス・トーク	225
(3) 第2回 おかやまサイエンス・トーク	226
(4) 第3回 おかやまサイエンス・トーク	227
(5) 第4回 おかやまサイエンス・トーク	228
(6) 実施による効果と評価	229
8. 保育環境の整備	233
(1) 「なかよし園」	233
(2) 「かいのき児童クラブ」開所と現況	234
(3) 「ますかっど病児保育ルーム」開所と現況	235
(4) その他（次世代育成支援に向けた取組）	236
① 次世代育成支援制度について	236
② 岡大パパ育児エッセイ集の発刊	237
9. 情報交換	238
(1) 他機関における「女性研究者支援モデル育成」事業の視察	238
① 平成21年度実施	238
② 平成22年度実施	241
(2) 本学の取組への他大学からの視察	244
① 平成21年度実施	244
② 平成22年度実施	245

平成21年度～22年度取組成果のまとめ （ダイバーシティ推進本部 男女共同参画室長）	i
---	---

参考資料	ii
(1) 岡山大学ダイバーシティポリシー	
(2) 岡山大学関連データ（女子学生の在籍状況／女性研究者の在籍状況／ 教育職員に占める女性教育職員の割合）	
(3) リーフレット／ポスター	
(4) 女性サポート相談室パンフレット	

I 「学都・岡大発 女性研究者が育つ進化プラン」の事業概要

I-1. 機関の現状 (H21年2月)

(1) 女性研究者の人数及び今後の見通し

現在、本学における女性研究者の比率は12%(135人)、自然科学系では10%(理学系3%(3人)、工学系4%(5人)、農学系8%(1人)、保健系49%(31人)、環境系4%(2人))である。一方、本学の理系の学部生、大学院生の女子学生(留学生を含む)の比率は決して低い水準ではなく(学部40%・修士35%・博士30%)、女子学生のポテンシャルは高い。このような状況を踏まえ、今後、本計画の実施を通じて、3年後には本学の自然科学系の女性研究者の数を現在の30%増を目指す。

(2) 女性研究者支援に関する現在の取組状況

本学では、次世代育成支援対策検討委員会設置、事業所内保育所の充実、病児保育施設及び学童保育施設設置予定(H21年度)、男女共同参画の推進に資する教養科目の開講等、この2~3年の間に急速に女性研究者支援に係る環境整備を進めてきた。更に、平成21年1月、ダイバーシティ推進本部を新たに設置、その下に「男女共同参画室」を置き、全学的な女性研究者支援体制を一層強化した。

I-2. 計画構想

(1) 女性研究者増に関する具体的な取組

本学は、戦略的・体系的な改革を目指して「意識改革への挑戦」、「サポート体制の充実」及び「組織改革の実質化」の3本の柱を有機的に連携させ、本学女性研究者の雇用率が低い理系に焦点をおいて、下記の「循環型人材育成進化プラン」を実行する。

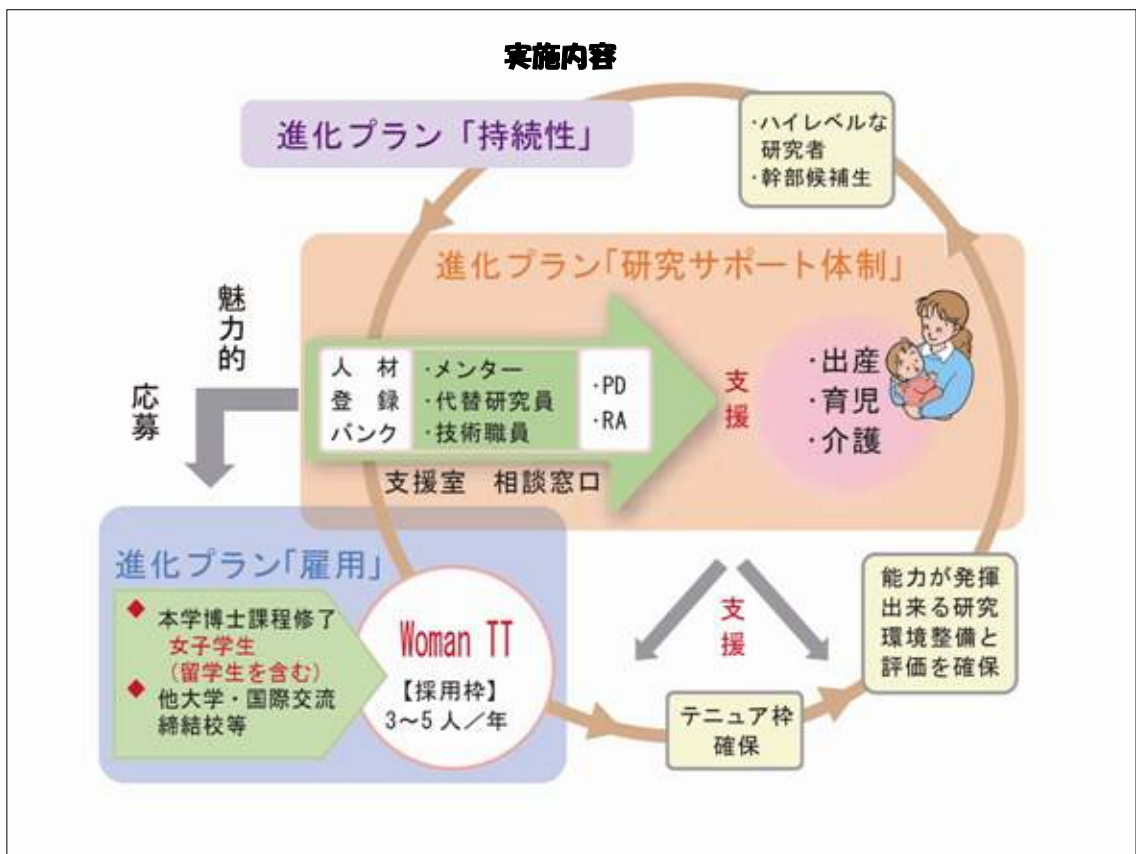
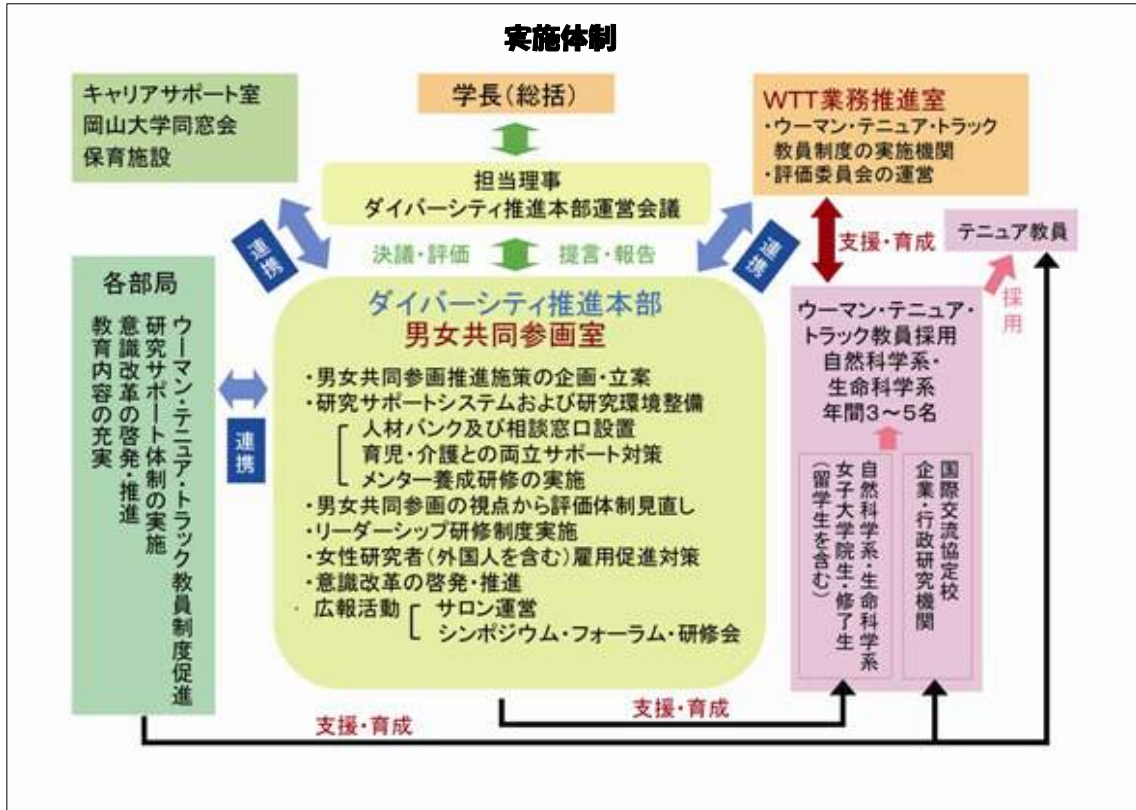
- 進化プラン「研究サポート体制」：女性研究者のニーズに対応すべく、人材登録バンクを設置・活用し、女性研究者ごとに研究サポートグループを構築。
- 進化プラン「雇用」：ウーマン・テニユア・トラック教員制度の新設(年3~5名採用予定。女性は出産・育児等特有の問題を有することから、柔軟な勤務体制)。
- 進化プラン「持続性」：研究サポートグループに参画した大学院女子学生はウーマン・テニユア・トラック教員の候補生となり、かつテニユア教員に採用された女性研究者はメンター教員として次世代の女性研究者の人材育成に関与(次世代の女性研究者の循環型人材育成保証)。

なお、本進化プランをスムーズに駆動させるため「システム改革支援室」を新設するとともに、メンタルサポートの相談窓口の設置のほか、サロン運営及びネットワークシステムの構築等による情報交換や、意識啓発・広報活動を実施する。

(2) 期待される効果

研究サポート体制の定着やウーマン・テニユア・トラック教員制度の導入等により、質の高い持続性のある女性研究者の雇用・育成が保証される。

I-3. 実施体制・実施内容



I-4. ミッションステートメント

(1) 実施機関終了時における具体的な目標

- ① 人材登録バンクの充実等により、女性研究者への研究サポート体制を確立する。
- ② ウーマン・テニユア・トラック教員制度を導入し、本事業期間中で6～10名の博士学位取得後の女性若手研究者の採用枠を設ける。
- ③ 3年後には本学の自然科学系の女性研究者の数を現在より30%増を目指し、10年後には同女性研究者の割合20%とすることを旨とする。

(2) 実施機関終了後の取り組み

- ① アンケート調査の結果分析や、評価委員会（学外者を含む）における評価結果を踏まえ、女性研究者への研究サポート体制の見直しを行う。
- ② 女性研究者の採用状況等を踏まえ、ウーマン・テニユア・トラック教員制度の見直しを行う。
- ③ 女性研究者の裾野拡大を図るとともに、研究力の高い女性研究者、管理職を任せられる女性研究者が数多く輩出されるよう、循環型人材育成進化プランを持続的に展開する。

(3) 期待される波及効果

本計画は、質の高い持続性のある女性研究者の雇用・育成を保証しようとするものであり、本計画の研究サポート体制やウーマン・テニユア・トラック教員制度は、他大学においても当該大学の実情に即して適用可能なものである。

I-5. 年次計画 (H21年4月)

取組内容	1年度目	2年度目	3年度目	4年度目以降
a. 人材登録バンクの設置	登録準備	本格的導入・効果の調査・改善点の検討		持続的に展開
b. 研究サポート体制の導入	検討・試行的導入	本格的導入・効果の調査・改善点の検討		持続的に展開
c. 次世代の女性研究者の循環型育成の導入	検討・試行的導入	本格的導入・効果の調査・改善点の検討		持続的に展開
d. アンケート調査・分析による意識改革の邁進	対象者拡大・項目充実による意識改革の邁進と公表			
e. サロン活動・広報活動の活性化	サイエンスカフェ・講演会・研修会開催・パンフレット作成			持続的に展開
f. ウーマン・テニユア・トラック教員制度の構築	制度の準備	ウーマン・テニユア・トラック教員制度の導入 (3～5人/年 3年任期制・再任可)		採用後3年目に評価 3年経過後以降テニユア教員

Ⅱ 「学都・岡大発 女性研究者が育つ進化プラン」事業推進体制の整備

Ⅱ-1 平成21年度事業推進体制の整備

(1) 事業推進体制

岡山大学では、学長の下に担当理事・副学長を推進本部長とする岡山大学ダイバーシティ推進本部が設置され（平成21年1月1日発足）、その下に男女共同参画室（平成21年1月1日発足）が設置されている（図1参照）。

本事業推進においては、男女共同参画室が推進母体となり、事業推進に必要な教員、職員を男女共同参画室員として補充し、室長以下15名の室員体制を構築し、強力且つ効果的な事業推進母体を整備した。

また、ダイバーシティ推進本部の下で保育施設等（保育施設・なかよし園、かいのき児童クラブ、ますかっくと病児保育ルーム）が運営され、本事業推進の対象となる女性教員に対するサポート体制の整備・充実を側面から支援する体制が構築された。

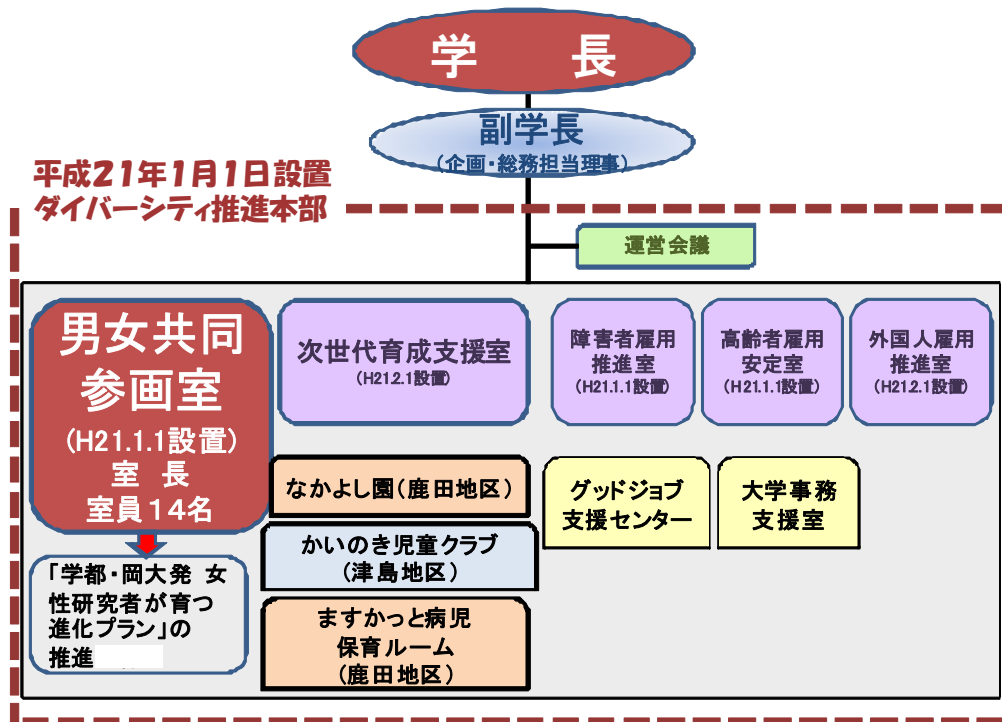


図1 岡山大学における事業推進体制

(2) 補助事業・関連事業及び担当責任者

平成21年度補助事業・関連事業及びそれらの担当責任者を表1に示す。「学都・岡大発 女性研究者が育つ進化プラン」推進の統括責任者は千葉喬三岡山大学長が務め、田中宏二企画・総務担当理事（副学長）が統括責任者、主要な事業9項目の担当・実施責任者は沖陽子男女共同参画室長（環境学研究科教授）が務めることとし、事業を推進した。

表 1 主要個別補助事業・関連事業及び担当責任者（平成 21 年度事業）

事業項目	実施場所	担当責任者
学都・岡大発 女性研究者が育つ進化プラン	岡山県岡山市 北区津島中1-1-1 国立大学法人岡山大学	学長 千葉 喬三 (統括責任者)
同上	同上	企画・総務担当理事 (副学長) 田中 宏二 (統括責任者)
①人材登録バンクの設置と 維持管理	同上	教授 男女共同参画室長 沖 陽子 (実施責任者)
②研究サポート体制の導入	同上	教授 男女共同参画室長 沖 陽子 (実施責任者)
③アンケート調査・分析による 意識改革	同上	教授 男女共同参画室長 沖 陽子 (実施責任者)
④意識啓発・広報活動の実施	同上	教授 男女共同参画室長 沖 陽子 (実施責任者)
⑤相談窓口の設置	同上	教授 男女共同参画室長 沖 陽子 (実施責任者)
⑥事業推進体制の整備	同上	教授 男女共同参画室長 沖 陽子 (実施責任者)
⑦システム改革支援室の新設	同上	教授 男女共同参画室長 沖 陽子 (実施責任者)
⑧ウーマン・テニユア・トラック 教員制度の準備	同上	教授 男女共同参画室長 沖 陽子 (実施責任者)
⑨保育環境の整備	同上	教授 男女共同参画室長 沖 陽子 (実施責任者)

(3) 補助事業・関連事業の推進責任者及び担当事業

推進責任者および担当の推進事業を表2にまとめて示す。表に示すように、統括責任者：千葉喬三学長，総括責任者：田中宏二理事・副学長，実施責任者：沖陽子男女共同参画室長の下に，14名の男女共同参画室員を配置し，それぞれが事業を分担し，相互に有機的連携の下で効率的に事業が推進される体制とした。

本事業の円滑，且つ効率的な推進を図るために，特任教授一名，相談員一名，及び事務職員二名を新規に採用した。特任教授は主に女性研究者支援業務に係る事務全般に関する事業を担当した。また，事務職員二名の内，一名はWTT教員制度関連事務，他の一名は女性研究者支援業務に係る事務全般を担当した。

表2 平成21年度補助事業・関連事業の実施・推進責任者及び担当する事業
(担当事業項目番号の内容は表1と同じ)

氏名	所属部局・職名	補助事業等における役割・分担 (事業項目)
千葉 喬三	岡山大学・学長	統括責任者
田中 宏二	岡山大学・副学長 (企画・総務担当理事)	総括責任者
沖 陽子	岡山大学大学院環境学研究科・教授 男女共同参画室 室長	事業実施・推進責任者 「循環型人材育成プラン」の統括と総括 (①②③④⑤⑥⑦⑧⑨)
中谷 文美	岡山大学大学院社会文化科学研究科(文)・教授	主にアンケート調査・分析による意識改革，意識啓発・広報活動の実施，相談窓口の設置 (③④⑤⑥)
五福 明夫	岡山大学大学院自然科学研究科(工)・教授	主に人材登録バンクの設置と維持管理，研究サポート体制導入，アンケート調査・分析による意識改革，意識啓発・広報活動の実施，ウーマン・テニユア・トラック制度の準備・実施 (①②③⑥⑧)
富岡 憲治	岡山大学大学院自然科学研究科(理)・教授	主に人材登録バンクの設置と維持管理，研究サポート体制導入，意識啓発・広報活動の実施，相談窓口の設置，ウーマン・テニユア・トラック制度の準備・実施 (①②④⑥⑧)
坂口 英	岡山大学大学院自然科学研究科(農)・教授	主に人材登録バンクの設置と維持管理，研究サポート体制導入，意識啓発・広報活動の実施，ウーマン・テニユア・トラック制度の準備・実施 (①②④⑥⑧)

II. 本事業推進体制

根岸 友恵	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科（薬）・准教授	主に人材登録バンクの設置と維持管理，研究サポート体制導入，意識啓発・広報活動の実施（①②④⑤⑥⑧）
片岡 仁美	岡山大学病院・講師	主にアンケート調査・分析による意識改革，意識啓発・広報活動の実施，相談窓口の設置，保育環境の整備（③④⑤⑥⑨）
篠原 陽子	岡山大学大学院教育学研究科（生活・健康スポーツ）講師	主に人材登録バンクの設置と維持管理，研究サポート体制導入，意識啓発・広報活動の実施（①②④⑥⑨）
田口 博之	岡山大学自然系研究科等事務部総務課・課長	主に本事業推進体制の整備，システム改革支援室の新設準備，ウーマン・テニユア・トラック教員制度の準備（④⑥⑦⑧）
小西 充	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科等事務部総務課・課長	主に本事業推進体制の整備，システム改革支援室の新設準備，ウーマン・テニユア・トラック教員制度の準備（④⑥⑦⑧）
早川 みどり	岡山大学総務・企画部人事課・主査	主に本事業推進体制の整備，システム改革支援室の新設，ウーマン・テニユア・トラック教員制度の準備（⑥⑦⑧⑨）
本水 昌二	男女共同参画室教授（特任）	女性研究者支援業務に係る事務全般（①②③④⑤⑦⑧）
小畑 千晴	男女共同参画室コーディネーター	女性サポート相談室全般（②④⑤⑥⑨）
増田 治美	男女共同参画室事務職員	女性研究者支援業務に係る事務全般（①②③④⑤⑥⑦⑧⑨）
松田 千寿栄	男女共同参画室事務職員	ウーマン・テニユア・トラック教員制度に係る事務全般（②④⑤⑥⑧）

（4）システム改革推進室の設置

ダイバーシティ推進本部男女共同参画室内規（学長裁定）に基づき，新たにシステム改革推進室を男女共同参画室に設置した。本推進室は，常勤職員中に占める女性職員の割合を増加させるために必要な施策のうち，自然科学系の女性研究者の増加を図る施策の企画・立案等行うことを目的としたものである。

システム改革推進室は，新規にスタートするウーマン・テニユア・トラック（WTT）制に関する業務を主に推進することとし，次に掲げる業務を行った。

- ・WTT 制の募集に係る企画・立案及び実施に関すること。
- ・WTT 制の教員選考手続きに関すること。
- ・WTT 教員のテニユア審査手続きに関すること。
- ・WTT 制に係る関係部局等との連絡・調整に関すること。
- ・WTT 教員評価委員会の運営に関すること。
- ・その他室長が必要と認める WTT 制に関すること。

Ⅱ-2 平成22年度事業推進体制の整備

(1) 補助事業・関連事業及び担当責任者

平成22年度補助事業・関連事業推進の統括責任者は引きつづき千葉喬三学長が務め、田中宏二 企画・総務担当理事（副学長）が総括責任者、主要な事業6項目の担当・実施責任者は沖陽子 男女共同参画室長が務め、事業を推進した（表3参照）。

表3 主要個別補助事業・関連事業及び担当責任者（平成22年度事業）

事業項目	実施場所	担当責任者
学都・岡大発 女性研究者が育つ進化プラン	岡山県岡山市 北区津島中1-1-1 国立大学法人岡山大学	学 長 千葉 喬三 (統括責任者)
同上	同上	企画・総務担当理事 (副学長) 田中 宏二 (総括責任者)
①事業実施体制の充実	同上	教授 男女共同参画室長 沖 陽子 (実施責任者)
②研究サポート体制の運用	同上	教授 男女共同参画室長 沖 陽子 (実施責任者)
③アンケート調査・分析による 意識改革の推進と公表	同上	教授 男女共同参画室長 沖 陽子 (実施責任者)
④意識啓発・広報活動の活性化	同上	教授 男女共同参画室長 沖 陽子 (実施責任者)
⑤ウーマン・テニユア・トラック 教員の公募・選考	同上	教授 男女共同参画室長 沖 陽子 (実施責任者)
⑥保育環境の充実	同上	教授 男女共同参画室長 沖 陽子 (実施責任者)

(2) 補助事業・関連事業の推進責任者及び担当事業

平成 22 年度の事業推進責任者、担当事業を表 4 に示す。補助事業および関連事業の拡大に伴い、効率的な事業展開と推進の必要性から、男女共同参画室に室長を補佐するための副室長を置き、新たに室員 2 名を増員し、更に特任助教 2 名、技術職員 1 名を増員し室長以下 19 名体制とした。また、人事課担当者 2 名のサポートを得て、事業の円滑な推進を図った。

事業の効率的且つ迅速な意志決定・推進を図るために部門制を取り入れ、企画統括部門、環境整備・支援推進部門、広報・意識啓発推進部門、次世代女性研究者育成推進部門の四部門、及びウーマン・テニユア・トラック (WTT) 関連業務を推進するための WTT 業務推進室の新体制とした (表 5 参照)。

それぞれの部門の所掌する事項及び具体的な事業活動範囲を表 6 に示す。

表 4 平成 22 年度補助事業・関連事業の実施・推進責任者及び担当する事業

氏 名	所属部局・職名	補助事業等における役割・分担 (事業項目)
千葉 喬三	岡山大学・学長	統括責任者
田中 宏二	岡山大学・副学長 (企画・総務担当理事)	総括責任者
沖 陽子	岡山大学環境管理センター教授・大学院環境学研究科兼務 男女共同参画室 室長	事業実施・推進責任者 「循環型人材育成プラン」の統括と総括
富岡 憲治	岡山大学大学院自然科学研究科 (理)・教授 男女共同参画室 副室長	ウーマン・テニユア・トラック教員の公募・選考, 人材登録バンクの本格的導入, 意識啓発・広報活動の活性化, 次世代女性研究者育成
中谷 文美	岡山大学大学院社会文化科学研究科 (文)・教授	アンケート調査・分析による意識改革の推進と公表, 意識啓発・広報活動の活性化
片岡 仁美	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 (医)・教授	研究サポート体制の導入, 意識啓発・広報活動の活性化
五福 明夫	岡山大学大学院自然科学研究科 (工)・教授	人材登録バンクの本格的導入, 研究サポート体制の導入, 意識啓発・広報活動の活性化
坂口 英	岡山大学大学院自然科学研究科 (農)・教授	次世代女性研究者育成, 意識啓発・広報活動の活性化

根岸 友恵	大学院医歯薬学総合研究科 (薬)・准教授	意識啓発・広報活動の活性化
篠原 陽子	岡山大学大学院教育学研究科 (生活・健康・スポーツ)・ 講師	次世代女性研究者育成, 意識啓発・広報活 動の活性化
柴倉 美砂子	岡山大学大学院保健学研究 科・准教授	意識啓発・広報活動の活性化
大山 和美	岡山大学大学院医歯薬学総合 研究科(歯)・助手	意識啓発・広報活動の活性化
小西 充	岡山大学大学院医歯薬学総合 研究科等事務部総務課・課長	意識啓発・広報活動の活性化, 研究サポ ート体制の導入, ウーマン・テニユア・トラ ック教員の公募, 選考
白髭 明	岡山大学自然系研究科等事務 部総務課・課長	意識啓発・広報活動の活性化, 研究サポ ート体制の導入, ウーマン・テニユア・トラ ック教員の公募, 選考
早川 みどり	岡山大学総務・企画部 人事課・総括主査	女性研究者支援のための事務的業務全般 及び保育環境の充実
本水 昌二	男女共同参画室・特任教授	女性研究者支援のための運營業務全般
保坂 雅子	男女共同参画室・特任助教	女性研究者支援のための運營業務全般
藤井 雅美	男女共同参画室・特任助教	女性研究者支援のための運營業務全般
門脇 孝弘	男女共同参画室・技術職員	人材登録バンクの本格的導入, アンケート 調査・分析, 意識啓発・広報活動の活性化, 次世代女性研究者育成
増田 治美	男女共同参画室・事務職員	女性研究者支援のための事務的業務全般
松田千寿栄	男女共同参画室・事務職員	WTT業務推進室, ウーマン・テニユア・ トラック教員制度に係る事務全般

女性サポート相談室

小畑 千晴	非常勤コーディネーター	女性研究者に関する問題を解決するた めの指導・助言
-------	-------------	------------------------------

Ⅱ. 本事業推進体制

人事課担当者

高橋 伸二	岡山大学総務・企画部人事課・主査	事業推進，広報活動等のためのサポート
居安 裕美	岡山大学総務・企画部人事課事務職員	事業推進，広報活動等のためのサポート

表5 平成22年度事業実施組織：
部門及びウーマン・テニユア・トラック（WTT）業務推進室

（1）部門

部門名	部門長	副部門長
企画・統括部門	沖 陽子	富岡 憲治
環境整備・支援推進部門	五福 明夫	片岡 仁美
広報・意識啓発推進部門	中谷 文美	根岸 友恵
次世代女性研究者育成推進部門	坂口 英	篠原 陽子

（2）業務推進室

室名	室長
WTT業務推進室	富岡 憲治

表 6 平成 22 年度 男女共同参画室における女性研究者支援体制

*◎部門長 ○副部門長 △担当助教 * 専任室員

*表中の①～⑥は表 3 の平成 22 年度主要補助事業・関連事業を示す。

部 門	メンバー	所掌する事項	具体的な事業及び活動範囲
企画・統括 部門	◎ 沖 室長 ○ 富岡 室員 小西 室員 白髭 室員 本水 室員 早川 室員 保坂 室員* 藤井 室員* 増田 室員* 松田 室員* 門脇 室員*	・男女共同参画の推進方策の企画及び立案に関する事項 ・男女共同参画状況の調査及び分析に関する事項 ・男女共同参画推進の実施状況の点検、評価及び改善に関すること ①事業実施体制の充実 *男女共同参画室充実 *人材登録バンクシステム機能強化	・男女共同参画全般に関わる事業・会議等の企画及び統括 ・女性研究者支援モデル育成事業の企画・実施・管理 ・男女共同参画に関する将来構想の作成 ・ポジティブアクションプランの作成・実施 ・ジェンダー関連講義の企画・実施 ・学内調整（学長・部局等） ・地域連携（岡山県・岡山市等） ・ホームページ管理 ・対外交渉（マスコミ等）
環境整備・ 支援推進 部門	◎ 五福 室員 ○ 片岡 室員 小西 室員 白髭 室員 △ 保坂 室員* 藤井 室員* 小畑相談員* 増田 室員* 松田 室員* 門脇 室員*	・男女共同参画に関わる支援・相談体制に関する事項 ②研究サポート体制の運用 *サポート体制の運用 *メンター養成研修等 *女性サポート相談室機能強化 ⑥保育環境の充実 *次世代育成支援室との連携による保育環境の充実	・学内規則等制度改革の検討 ・人材登録バンクの整備・運営 ・研究者支援グループのコーディネート ・女性サポート相談室 ・女性キャリアデザイン援助 ・メンター事業の企画・実施（研修会の実施、メンター制度の整備・運営） ・次世代育成支援室との連携 ・学内保育施設等の充実 ・出産・育児・介護支援プログラム ・ワーク・ライフ・バランス推進
広報・意識 啓発推進 部門	◎ 中谷 室員 ○ 根岸 室員 坂口 室員 柴倉 室員 大山 室員 保坂 室員* △ 藤井 室員* 増田 室員* 松田 室員* 門脇 室員*	・男女共同参画に係る情報提供、広報等関連事項 ・男女共同参画の推進のために必要な啓発活動に関する事項 ③アンケート調査・分析による意識改革の推進と公表 ④意識啓発・広報活動の活性化 *交流サロン開催 *シンポジウム開催 *その他広報活	・学内・学外における広報活動 ・意識啓発、意識改革推進 ・交流サロンの企画・実施 ・シンポジウム企画・実施 ・ニュースレター発行
次世代女性 研究者育成 推進部門	◎ 坂口 室員 ○ 篠原 室員 白髭 室員 本水 室員* 保坂 室員* △ 藤井 室員* 門脇 室員*	・学生・院生対象の事業 ・中高生対象の事業	・学内学生・院生対象のロールモデルによる研究紹介、講演会の企画・実施 ・学外中高生対象研究紹介の企画・実施（おかやまサイエンス・トークの企画と実施）
WTT 業務推 進室	◎ 富岡 室員 松田 室員* 学内有識者 (数名)	・WTT 教員制度の企画・立案関連業務 ⑤ウーマン・テニユア・トラック教員の公募・選考 *第Ⅱ期 WTT 教員公募等	・WTT 教員募集に係る企画・立案及び実施 ・WTT 教員選考手続き業務 ・WTT 教員テニユア審査手続き業務 ・WTT 制に係る関係部局等との連絡・調整 ・WTT 教員評価委員会の運営

(3) ウーマン・テニユア・トラック (WTT) 業務推進室の設置

ダイバーシティ推進本部男女共同参画室内規 (学長裁定) により設けたシステム改革推進室を発展させ、ウーマン・テニユア・トラック (WTT) 業務推進室とした。これは、増加する WTT 教員に対するきめ細かな支援と WTT 制度の一層の充実を目指すために業務内容を整理し、さらに室の体制を強化したものである。

II-3 本事業の実施・推進体制のまとめ

本事業の実施・推進体制をまとめたものが図 2 である。男女共同参画室が主体的に本事業及び「循環型人材育成プラン」を推進し、各部局におけるウーマン・テニユア・トラック (WTT) 教員制度による女性研究者の増員の促進、女性研究者の研究サポートシステムの構築、意識啓発の推進等の支援を行う。さらに、WTT 業務推進室を中心として WTT 教員の採用、採用後のきめ細やかな各種支援を行う。また、平成 21 年度に発足した女性サポート相談室では、女性研究者のさまざまな問題の相談を行う。

WTT 教員制度の実施機関として位置づけられる「システム改革推進室」を平成 21 年度に設置し、第 I 期 WTT 教員の選考を行った。平成 22 年度は、21 年度の経験を踏まえ、「システム改革推進室」を「ウーマン・テニユア・トラック (WTT) 業務推進室」に改組し、WTT 教員制度の一層の充実を図った。

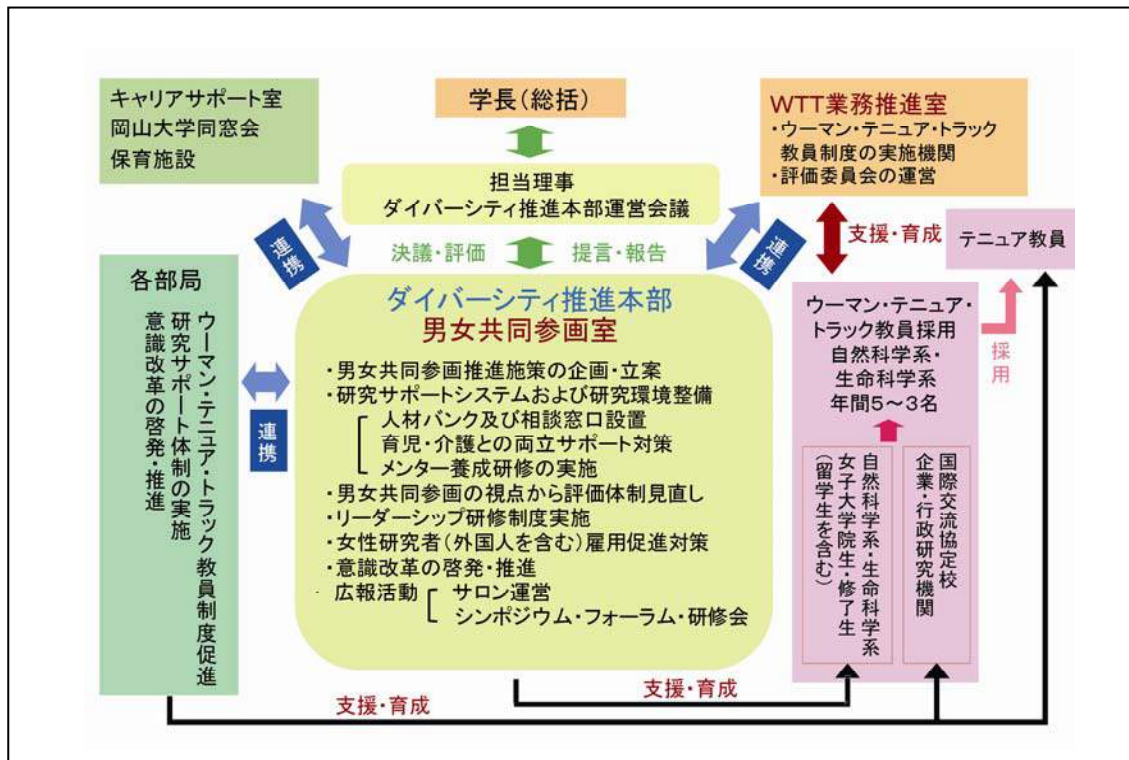


図 2 「学都・岡大発 女性研究者が育つ進化プラン」事業の実施・推進体制

Ⅲ 平成 21 年度～22 年度活動一覧

Ⅲ-1 平成 21 年度～22 年度活動日誌

実施日		内容	分類
年	月日		
平成 21 年	4 月 3 日	第 1 回男女共同参画室会議	【会議】
平成 21 年	4 月 20 日	第 2 回男女共同参画室会議	【会議】
平成 21 年	6 月 19 日	第 3 回男女共同参画室会議	【会議】
平成 21 年	7 月 1 日	男女共同参画室特任教授 1 名採用	【採用】
平成 21 年	7 月 17 日	学童保育施設「かいのき児童クラブ」開設について	【広報】
平成 21 年	7 月 24 日	JST：現地調査 研究サポート体制構築検討会合	【会議】
平成 21 年	8 月 6 日	女性エンジニア育成支援シンポジウム参加（名古屋市）	【参加】
平成 21 年	8 月 27 日	広島大学男女共同参画推進室訪問（東広島市）	【訪問】
平成 21 年	9 月 1 日	男女共同参画室 事務職員 2 名採用	【採用】
平成 21 年	9 月 5 日	第 1 回九州アイランド女性研究者支援シンポジウム 参加（宮崎市）	【参加】
平成 21 年	9 月 11 日	第 4 回男女共同参画室会議	【会議】
平成 21 年	9 月 18 日	男女共同参画室相談員の募集 (締切 2009 年 10 月 16 日)	【募集】
平成 21 年	9 月 29 日	第 1 回交流サロン開催	【実施】
平成 21 年	10 月 1 日	ますかっと病児保育ルームの開所について	【広報】
平成 21 年	10 月 6 日	WTT（ウーマン・テニユア・トラック）教員募集 (締切 2009 年 12 月 15 日)	【募集】
平成 21 年	10 月 7 日	第 7 回男女共同参画学協会連絡会シンポジウム& ポスターセッション参加（東京都目黒区）	【参加】
平成 21 年	10 月 10 日	Art,Science,My Life～ワークライフバランスと自己実 現～（共催）	【実施】
平成 21 年	10 月 30 日	名古屋大学男女共同参画推進シンポジウム&ポスター 展示参加（名古屋市）	【参加】
平成 21 年	10 月 30 日	第 5 回男女共同参画室会議	【会議】
平成 21 年	10 月 30 日	男女共同参画アンケート用紙 配布開始	【実施】
平成 21 年	11 月 6 日	佐賀大学女性研究者支援キックオフシンポジウム参加 (佐賀市)	【参加】
平成 21 年	11 月 7 日	日本化学会西日本大会 2009 第 1 回男女共同参画シン ポジウム&パネル討論参加（松山市）	【参加】

Ⅲ. 平成 21 年度～22 年度活動一覧

平成 21 年	11 月 9 日	第 2 回金沢大学女性研究者支援シンポジウム参加 (金沢市)	【参加】
平成 21 年	11 月 9 日	JST : 現地調査	
平成 21 年	11 月 11 日	課題事業広報用リーフレットの作成	【広報】
平成 21 年	11 月 22 日	岡山 MUSCAT シンポジウム (協賛)	【参加】
平成 21 年	11 月 25 日 11 月 26 日	女性研究者支援システム改革プログラム事業 合同シンポジウム参加 (東京都千代田区)	【参加】
平成 21 年	11 月 13 日	第 2 回交流サロン	【実施】
平成 21 年	12 月 1 日	千葉大学シンポジウム ポスター展示参加	【参加】
平成 21 年	12 月 3 日	東京医科歯科大学シンポジウム参加 (東京都文京区)	【参加】
平成 21 年	12 月 7 日 12 月 8 日	メンター養成研修	【実施】
平成 21 年	12 月 8 日	新潟大学第 2 回シンポジウム参加 (新潟市)	【参加】
平成 21 年	12 月 8 日	男女共同参画室 非常勤コーディネーター (相談室相談員) 1 名採用	【採用】
平成 21 年	12 月 14 日	第 6 回男女共同参画室会議	【会議】
平成 21 年	12 月 21 日	第一回中四国シンポジウム・第三回広島大学シンポジウム参加 (東広島市)	【参加】
平成 21 年	12 月 22 日	課題事業広報用ポスターの作成・配布	【広報】

平成 22 年	1 月 18 日	女性サポート相談室開設	【開設】
平成 22 年	1 月 29 日	第 7 回男女共同参画室会議	【会議】
平成 22 年	1 月 29 日	人材登録バンク検討ワーキンググループ第 1 回会合	【会議】
平成 22 年	3 月 2 日	平成 22 度 4 月 1 日採用 WTT 教員の決定 (4 名)	【採用】
平成 22 年	3 月 5 日	第 3 回交流サロン	【実施】
平成 22 年	3 月 5 日	岡山大学男女共同参画推進国際シンポジウム ウェルカムパーティ	【実施】
平成 22 年	3 月 6 日	岡山大学男女共同参画推進国際シンポジウム	【実施】
平成 22 年	3 月 10 日	次世代を育む講演会 I (後援)	【参加】
平成 22 年	3 月 20 日	日本物理学会男女共同参画推進委員会主催 シンポジウム講演発表 (岡山大学創立五十周年記念館)	【参加】
平成 22 年	3 月 29 日	岡山大学ダイバーシティ推進本部男女共同参画室 HP の開設	【開設】
平成 22 年	3 月 29 日	人材登録バンクの開設	【開設】

平成 22 年	3 月 31 日	男女共同参画アンケート集計結果公表 (ホームページへ掲載)	【公表】
平成 22 年	4 月 1 日	技術職員 1 名採用	【採用】
平成 22 年	4 月 13 日	次世代を育む講演会Ⅱ (協賛)	【実施】
平成 22 年	4 月 16 日	平成 22 年度 第 1 回男女共同参画室会議	【会議】
平成 22 年	4 月 19 日	助教 2 名採用	【採用】
平成 22 年	4 月 20 日	第 1 回企画・統括部門会議	【会議】
平成 22 年	4 月 23 日	ロゴマーク公募開始 (ホームページ)	【募集】
平成 22 年	4 月 27 日	ロゴマーク公募 G メール配信	【募集】
平成 22 年	4 月 27 日	サポート相談室のお知らせ G メール配信	【広報】
平成 22 年	4 月 30 日	科学 Try アンゲル岡山と打合せ	【会議】
平成 22 年	5 月 6 日	第 2 回企画・統括部門会議	【会議】
平成 22 年	5 月 10 日	第 1 回広報・意識啓発推進会議	【会議】
平成 22 年	5 月 13 日	さんかく岡山との打合せ	【会議】
平成 22 年	5 月 14 日	第 1 回次世代女性研究者育成推進部門会議	【会議】
平成 22 年	5 月 18 日	大阪教育大学教育学部 小松孝至准教授 来学	【来学】
平成 22 年	5 月 20 日	平成 22 年度 第 2 回男女共同参画室会議	【会議】
平成 22 年	5 月 26 日	第 1 回 Career Café	【実施】
平成 22 年	5 月 28 日	第 1 回環境整備・支援推進部門会議	【会議】
平成 22 年	6 月 4 日	第 1 回交流サロン	【実施】
平成 22 年	6 月 14 日	第 2 回環境整備・支援推進部門メール会議 (14 日～18 日)	【会議】
平成 22 年	6 月 17 日	第 3 回企画・統括部門会議	【会議】
平成 22 年	6 月 22 日	平成 22 年度男女共同参画社会づくりに向けての全国 会議 (内閣府) 参加 (東京都港区)	【参加】
平成 22 年	6 月 23 日	さんかくウイーク 2010/市民協働事業 講演会参加 (岡山市)	【参加】
平成 22 年	6 月 23 日	次世代を育む講演会Ⅲ (協賛)	【参加】
平成 22 年	6 月 24 日	平成 22 年度 第 3 回男女共同参画室会議	【会議】
平成 22 年	7 月 1 日	第 1 回おかやまサイエンス・トーク (県立一宮高等学校)	【実施】
平成 22 年	7 月 2 日	文部科学省科学技術・学術政策 中岡政策課長来学	【訪問】
平成 22 年	7 月 5 日 7 月 6 日	(独) 国立女性教育会館シンポジウム参加 (埼玉県比企郡)	【参加】

Ⅲ. 平成 21 年度～22 年度活動一覧

平成 22 年	7 月 8 日	(株) 科学新聞社「科学技術振興調整費・実施課題」実施状況調査 新聞記事報道状況調査第 1 回報告	【報告】
平成 22 年	7 月 9 日	第 3 回環境整備・支援推進部門会議	【会議】
平成 22 年	7 月 15 日	第 4 回企画・統括部門会議	【会議】
平成 22 年	7 月 22 日	JST：額の確定調査	【調査】
平成 22 年	7 月 22 日	平成 22 年度 第 4 回男女共同参画室会議	【会議】
平成 22 年	7 月 23 日	ロゴマーク採用者表彰式	【実施】
平成 22 年	7 月 27 日	ニュースレター創刊号配布	【実施】
平成 22 年	7 月 30 日	第 2 回交流サロン&Career Café	【実施】
平成 22 年	8 月 2 日	岡山大学ダイバーシティ推進本部男女共同参画室研究支援員事業要項施行(7 月 28 日学長裁定)	【実施】
平成 22 年	8 月 4 日	第 4 回環境整備・支援推進部門会議	【会議】
平成 22 年	8 月 6 日	平成 22 年度第 1 次「研究支援員事業」利用者の募集 (募集期間 8/6～8/31)	【募集】
平成 22 年	8 月 6 日 8 月 7 日	岡山大学オープンキャンパス展示	【実施】
平成 22 年	8 月 11 日	第 2 回広報・意識啓発推進部門	【会議】
平成 22 年	8 月 19 日	第 45 回地盤工学研究発表会 (特別セッション) 講演発表 (松山市)	【参加】
平成 22 年	8 月 24 日	女性研究者支援に関するニーズ調査	【実施】
平成 22 年	8 月 26 日	第 2 回おかやまサイエンス・トーク (ノートルダム清心高等学校)	【実施】
平成 22 年	9 月 2 日	JST：現地調査	
平成 22 年	9 月 7 日	(株) 科学新聞社「科学技術振興調整費・実施課題」実施状況調査 新聞記事報道状況調査第 2 回報告	【報告】
平成 22 年	9 月 8 日	第 5 回企画・統括部門会議	【会議】
平成 22 年	9 月 10 日	第 1 回男女共同参画に関する管理職セミナー	【実施】
平成 22 年	9 月 13 日	東北大学加速プログラムシンポジウム参加 (仙台市)	【参加】
平成 22 年	9 月 15 日	平成 22 年度 第 5 回男女共同参画室会議	【会議】
平成 22 年	9 月 16 日	外部資金獲得セミナー	【実施】
平成 22 年	9 月 28 日	第 3 回おかやまサイエンス・トーク (県立総社高等学校)	【実施】
平成 22 年	9 月 29 日	第 3 回 Career Café	【実施】
平成 22 年	9 月 30 日	筑波大学シンポジウム参加 (つくば市)	【参加】
平成 22 年	9 月 30 日	(株) 科学新聞社「科学技術振興調整費・実施課題」実	【報告】

		施状況調査 新聞記事報道状況調査第 3 回報告	
平成 22 年	10 月 5 日 10 月 6 日	女性研究者支援システム改革プログラム事業合同シンポジウム参加 (京都市)	【参加】
平成 22 年	10 月 7 日	第 8 期男女共同参画学協会連絡会シンポジウム参加 (埼玉県和光市)	【参加】
平成 22 年	10 月 8 日	東京都市大学国際シンポジウム参加 (東京都世田谷区)	【参加】
平成 22 年	10 月 10 日	第 1 回 MUSCAT フォーラム (共催)	【実施】
平成 22 年	10 月 14 日	第 6 回企画・統括部門会議	【会議】
平成 22 年	10 月 16 日	研究支援員事業 (平成 22 年度第 1 次募集分) 利用開始	【実施】
平成 22 年	10 月 21 日	平成 22 年度 第 6 回男女共同参画室会議	【会議】
平成 22 年	10 月 29 日	第 3 回交流サロン	【実施】
平成 22 年	11 月 1 日	平成 22 年度第 2 次「研究支援員事業」利用者の募集 (募集期間 11/1～11/30)	【募集】
平成 22 年	11 月 11 日	メンタリングに関するセミナー	【実施】
平成 22 年	11 月 15 日	第 4 回おかやまサイエンス・トーク (県立玉島高等学校)	【実施】
平成 22 年	11 月 15 日	平成 23 年度積算資料の提出	
平成 22 年	11 月 18 日	平成 22 年度第 7 回男女共同参画室会議	【会議】
平成 22 年	11 月 19 日	JST : 現地調査	
平成 22 年	11 月 23 日	IEEE TENCON 2010 スペシャル企画パネルディスカッション参加 (福岡市)	【参加】
平成 22 年	11 月 24 日 ～26 日	岡山大学における理系女子大学院生の研究生活の実態およびニーズに関する調査	【実施】
平成 22 年	11 月 25 日	平成 22 年度 第 7 回男女共同参画室会議	【会議】
平成 22 年	12 月 1 日	島根大学 中四国男女共同参画シンポジウム参加 (松江市)	【参加】
平成 22 年	12 月 2 日	朝日新聞社取材	【広報】
平成 22 年	12 月 2 日	愛媛大学来学	【来学】
平成 22 年	12 月 3 日	筑波大学男女共同参画推進室訪問	【訪問】
平成 22 年	12 月 7 日	徳島大学シンポジウム参加 (徳島市)	【参加】
平成 22 年	12 月 8 日	第 4 回 Career Café	【実施】
平成 22 年	12 月 9 日	第 8 回企画・統括部門会議	【会議】
平成 22 年	12 月 10 日	ニュースレター (第 2 号) 配布開始	【実施】
平成 22 年	12 月 11 日	平成 22 年度女性科学技術者講演会 (後援)	【参加】

Ⅲ. 平成 21 年度～22 年度活動一覧

平成 22 年	12月14日	(株) 科学新聞社「科学技術振興調整費・実施課題」実施状況調査 新聞記事報道状況調査第 4 回報告	【報告】
平成 22 年	12月16日	平成 22 年度 第 8 回男女共同参画室会議	【会議】
平成 22 年	12月16日	第 1 回メンタリングに関する勉強会 (1-1)	【実施】
平成 22 年	12月18日	平成 22 年度男女共同参画推進シンポジウム	【実施】
平成 22 年	12月21日	第 1 回メンタリングに関する勉強会 (1-2)	【実施】
平成 22 年	12月22日	第 1 回メンタリングに関する勉強会 (1-3)	【実施】
平成 22 年	12月27日	新「なかよし園」開所	【実施】

平成 23 年	1月4日	平成 23 年度第 1 次「研究支援員事業」利用者の募集 (募集期間 1/4～1/31)	【募集】
平成 23 年	1月14日	香川大学男女共同参画推進室訪問 (高松市)	【訪問】
平成 23 年	1月14日	山陽新聞社取材	【広報】
平成 23 年	1月16日	研究支援員事業 (平成 22 年度第 2 次募集分) 利用開始	【実施】
平成 23 年	1月17日	さんかく岡山との打合せ	【会議】
平成 23 年	1月18日	島根大学男女共同参画推進室訪問 (松江市)	【訪問】
平成 23 年	1月19日	岡山県男女共同参画推進センター訪問 (岡山市)	【訪問】
平成 23 年	1月20日	第 9 回企画・統括部門会議	【会議】
平成 23 年	1月20日	第 9 回メンタリングに関する勉強会 (2-1)	【実施】
平成 23 年	1月21日	研究スキルアップ講座第 2 弾 「研究シーズの知的財産化」	【実施】
平成 23 年	1月23日	市民協働事業 講演会&ワークショップ	【実施】
平成 23 年	1月25日	第 2 回メンタリングに関する勉強会 (2-2)	【実施】
平成 23 年	1月27日	平成 22 年度 第 9 回男女共同参画室会議	【実施】
平成 23 年	2月7日	第 4 回交流サロン&第 2 回 MUSCAT Junior ミーティング (共催)	【実施】
平成 23 年	2月8日 2月9日	筑波大学男女共同参画推進室訪問 (つくば市)	【訪問】
平成 23 年	2月21日	秋田大学国際シンポジウム参加 秋田大学男女共同参画推進室訪問 (秋田市)	【参加】 【訪問】
平成 23 年	2月22日	金沢大学キャリアデザインラボラトリー訪問 (金沢市)	【訪問】
平成 23 年	2月23日	富山大学男女共同参画推進室訪問 (富山市)	【訪問】
平成 23 年	2月23日	香川大学 四国女性研究者フォーラム参加 (高松市)	【参加】

Ⅲ－2 男女共同参画室会議議事

平成21年度

第1回	<p>日時：平成21年4月3日 14：00～</p> <p>場所：本部棟5階 第2会議室</p> <p>議題：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「女性研究者支援モデル育成（科学技術振興調整費）」 今後の予定について 2. 男女共同参画に関する実態調査プレアンケートについて 3. その他
第2回	<p>日時：平成21年4月20日 13：00～</p> <p>場所：本部棟5階 第2会議室</p> <p>議題：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「学都・岡大発 女性研究者が育つ進化プラン」 ヒアリングの報告について 2. 今後の運営体制等について 3. その他
第3回	<p>日時：平成21年6月19日 16：00～</p> <p>場所：本部棟5階 第2会議室</p> <p>議題：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「学都・岡大発 女性研究者が育つ進化プラン」 交付申請関係書類一式について 2. ダイバーシティ推進本部への経費要求について 3. JST実地調査について 4. 今後の実施体制について 5. アンケート調査について 6. その他
第4回	<p>日時：平成21年9月11日 9：30～</p> <p>場所：本部棟5階 第2会議室</p>

	<p>議題：</p> <ol style="list-style-type: none">1. アンケート調査について2. 第 1 回交流サロンについて（9 月 29 日（火）開催）3. その他の事業について4. W T T 教員の募集について5. 男女共同参画室員の増員について6. その他
第 5 回	<p>日時：平成 21 年 10 月 30 日 13：30～</p> <p>場所：本部棟 5 階 第二会議室</p> <p>議題：</p> <ol style="list-style-type: none">1. ダイバーシティ推進本部会議の報告について2. 各事業の進捗状況3. 第 2 回交流サロンについて4. 国際シンポジウムと第 3 回交流サロンについて5. W T T について6. 来年度の事業計画について7. その他
第 6 回	<p>日時：平成 21 年 12 月 14 日 15：00～</p> <p>場所：本部棟 5 階 第二会議室</p> <p>議題：</p> <p>【報告事項】</p> <ol style="list-style-type: none">1. 新室員の紹介2. 第 2 回交流サロンについて3. アンケート調査について4. メンター研修について5. 女性サポート支援室の開設について6. 「女性研究者支援」広報用ポスターの配布について7. W T T 応募状況について（12 月 15 日締め切り）8. J S T からの報告事項について9. H P, 人材登録バンクの進捗状況について10. その他

	<p>【審議事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. WTT 教員制度について 2. 第 3 回交流サロン・国際シンポジウムについて 3. 来年度の事業計画について 4. 岡山大学男女共同参画宣言について 5. その他
--	--

第 7 回	<p>日時：平成 22 年 1 月 29 日 13:30～</p> <p>場所：旧事務局庁舎 2 階(産学官連携機構) 第 2 会議室</p> <p>議題：</p> <p>【報告事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 第 3 回交流サロンについて 2. 国際シンポジウムについて 3. 研究サポート体制について 4. その他 <p>【審議事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 女性サポート相談室の開設について 2. WTT 審査状況および WTT 教員制度について 3. アンケートの集計・分析状況について 4. HP, 人材登録バンクの進捗状況について 5. JST への報告事項について 6. その他
-------	---

平成 22 年度

第 1 回	<p>日時：平成 22 年 4 月 16 日 (金) 13:30～</p> <p>場所：本部棟 3 階入札室</p> <p>議題：</p> <p>【報告事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. WTT 教員採用について 2. 技術職員, 助教の採用について 3. 第 3 回交流サロン・国際シンポジウムについて 4. アンケートの集計結果報告について 5. 人材登録バンクについて
-------	---

	<p>6. 女性サポート相談室 稼働状況について</p> <p>7. その他</p> <p>【審議事項】</p> <p>1. 研究サポート体制（案）について</p> <p>2. 平成 22 年度事業計画および活動予定と体制について</p> <p>3. その他</p> <p>【その他】</p> <p>1. 平成 21 年度活動報告書作成について</p> <p>2. 定例室会議について</p> <p>3. ロゴマーク募集について</p> <p>4. その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次世代育成支援室の冊子紹介 ・加速プランについて
--	---

第 2 回	<p>日時：平成 22 年 5 月 20 日（木）9：30～</p> <p>場所：本部棟 5 階第二会議室</p> <p>議題：</p> <p>【報告事項】</p> <p>1. 平成 21 年度事業報告書作成状況について</p> <p>2. 男女共同参画室会議年間予定について</p> <p>3. 平成 22 年度第 1 期メンター養成研修開催案内（案）について</p> <p>4. Career Café の開催について</p> <p>5. 第 1 回広報・意識啓発推進部門会議報告</p> <p>6. WTT 関係の進捗状況について</p> <p>【審議事項】</p> <p>1. 男女共同参画室組織図について</p> <p>2. 平成 22 年度のメンター事業について</p> <p>3. 広報・意識啓発推進部門年間計画（案）について</p> <p>4. 学内学生・院生対象のロールモデルによる研究紹介，講演会について</p> <p>5. 学外中高生対象研究紹介について</p> <p>6. 平成 23 年度 WTT 教員募集要項（案）について</p> <p>7. ロゴマーク審査</p> <p>【その他】</p> <p>1. 「第 45 回地盤工学会研究発表会」男女共同参画特別セッション講演依頼について</p>
-------	---

	<ul style="list-style-type: none"> 2. 岡山市「さんかく岡山」からの協力連携依頼について 3. 各部門年度計画・予算案作成について
--	---

<p>第3回</p>	<p>日時：平成22年6月24日（木）9：30～</p> <p>場所：本部棟5階 第二会議室</p> <p>議題：</p> <p>【報告事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> 1. 平成22年度男女共同参画室関係活動計画 実施状況について 2. 企画・統括部門会議の報告 3. 環境整備・支援推進部門会議の報告 4. 第1回交流サロンの報告 5. 新講義について 6. 第1回おかやまサイエンス・トークについて 7. ウーマン・テニユア・トラック（WTT）制の実施に関する規定について 8. 平成22年度WTT人事協議会 議事要旨 <p>【審議事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> 1. ロゴマークの審査 2. 研究サポーター制度について 3. メンター制度について 4. 管理職セミナーについて 5. ニーズ調査について 6. ニュースレター（創刊号）について 7. 第2回交流サロンについて 8. シンポジウム企画（案）について 9. オープンキャンパスパネル展示について <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> 1. 科学技術基本政策策定の基本方針（案）について 2. 岡山大学教員職員の採用人数，在職状況について
------------	---

<p>第4回</p>	<p>日時：平成22年7月22日（木）9：30～</p> <p>場所：本部棟5階 第二会議室</p> <p>議題：</p>
------------	---

	<p>【報告事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 平成 22 年度男女共同参画室関係活動計画表について 2. 企画・統括部門会議の報告 3. ロゴマーク採用者表彰式について 4. H 2 1 事業報告書の配布先と冊数について 5. 環境整備・支援推進部門の活動状況について 6. 第 2 回交流サロンについて 7. ニュースレター・バインダー配布先と数について 8. 平成 22 年度市民協働事業の連携について 9. 第 1 回おかやまサイエンス・トーク実施報告について 10. 第 2 回おかやまサイエンス・トークについて 11. 県内中学校・高等学校への通知について 12. おかやまサイエンス・トークチラシについて 13. ウーマン・テニユア・トラック (W T T) 募集要項について <p>【審議事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究支援員事業について 2. 人材登録バンクについて 3. オープンキャンパスについて 4. シンポジウムについて
--	--

第 5 回	<p>日時：平成 22 年 9 月 15 日（木）9：45～</p> <p>場所：本部棟 5 階 第二会議室</p> <p>議題：</p> <p>【報告事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 平成 22 年度男女共同参画室関係活動計画表について 2. 「集まれ！理系女子第 2 回女子生徒による科学研究発表交流会」へのポスター発表参加について 3. 女性科学者技術講習会（科学トライアングル）について 4. 平成 21 年度科学技術総合推進費補助金額の確定調査結果報告 5. J S T 現地調査について 6. 各部門予算執行状況について 7. 環境整備・支援推進部門会議の開催状況について 8. 研究支援員事業について 9. 人材登録バンクの登録状況について 10. 第 1 回男女共同参画に関する管理職セミナーの実施について
-------	---

	<p>1 1. 岡山大学における女性研究者支援に関するニーズ調査の実施について</p> <p>1 2. 女子理系大学院生を対象とするニーズ調査について</p> <p>1 3. 第 2 回交流サロンの実施報告について</p> <p>1 4. 新講義について</p> <p>1 5. 第 2 回おかやまサイエンス・トーク実施報告について</p> <p>1 6. 第 3 回おかやまサイエンス・トークについて</p> <p>1 7. ウーマン・テニユア・トラック (WTT) 応募状況について</p> <p>1 8. 「杜の都ジャンプアップ事業 for 2013 シンポジウム 2010」参加報告</p> <p>【審議事項】</p> <p>1. 岡山大学人材登録バンクについて</p> <p>2. 岡山大学におけるメンター事業について</p> <p>3. メンタリングに関するセミナーの実施について</p> <p>4. 外部資金獲得セミナーの実施について</p> <p>5. 第 3 回交流サロンについて</p> <p>6. シンポジウムについて</p> <p>7. 第 2 号ニュースレターの内容と配布について</p> <p>8. 県内中学校・高等学校への実施希望調査について</p>
--	---

第 6 回	<p>日時：平成 22 年 10 月 21 日（木）9：30～</p> <p>場所：本部棟 5 階 第二会議室</p> <p>議題：</p> <p>【報告事項】</p> <p>1. 研究支援員事業の様式等の変更について</p> <p>2. 人材登録バンクの周知徹底について</p> <p>3. 外部資金獲得セミナーの実施について</p> <p>4. 岡山大学における女性研究者支援に関するニーズ調査の実施について</p> <p>5. 第 3 回キャリアカフェの開催について</p> <p>6. 第 3 回交流サロン行程表について</p> <p>7. シンポジウムについて</p> <p>8. ニュースレター第 2 号について</p> <p>9. 第 2 回おかやまサイエンス・トーク新聞報道について</p> <p>10. 第 3 回おかやまサイエンス・トーク実施報告について</p> <p>11. 第 4 回おかやまサイエンス・トーク実施予定について</p> <p>12. 第 II 期 WTT 応募者数について</p> <p>13. 第 II 期 WTT 評価委員会委員について</p>
-------	---

	<p>【審議事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 平成 22 年度男女共同参画室関係活動計画表について 2. 男女共同参画に関する基本理念と基本方針について 3. 室会議の運営について 4. 室会議の開催予定について 5. メンター事業の整備について 6. 岡山大学人材登録バンクについて 7. 職場・修学環境調査の実施について 8. 研究支援員事業の利用者の募集について <p>【その他】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 出張報告 2. 第 3 回ダイバーシティ推進本部運営会議について 3. 予算関係について
--	--

第 7 回	<p>日時：平成 22 年 11 月 25 日（木）9：00～</p> <p>場所：本部棟 5 階 第二会議室</p> <p>議題：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 新室員の紹介 2. 平成 22 年度年間活動計画予定表について 3. 科学技術振興機構による現地調査について 4. 男女共同参画基本理念及び基本方針の作成について 5. 封筒・ファイル作成について 6. 出張報告（九州大学） 7. メンタリングに関するセミナーの実施について 8. 第 3 回交流サロンについて 9. シンポジウムについて 10. ニュースレター第 2 号について 11. 第 4 回おかやまサイエンス・トーク実施報告について 12. おかやまサイエンス・トーク開催希望調査について 13. 第 II 期 WTT 教員募集結果について 14. 第 II 期 WTT 教員選考経過について <p>【審議事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 公募文書へのポジティブアクションの明記について 2. 今後の部門長会議の開催（位置づけ）について 3. メンター事業の整備について
-------	--

	<p>4. メンタリングに関する勉強会の実施について</p> <p>5. 研究スキルアップ講座の開催について</p>
--	--

<p>第 8 回</p>	<p>日時：平成 22 年 12 月 16 日（木）9：00～</p> <p>場所：本部棟 5 階 第二会議室</p> <p>議題：</p> <p>【報告事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 出張報告（島根大学・筑波大学・徳島大学） 2. 科学 T r y アングル主催の講演会について（12/11 開催） 3. 昨年度の活動報告書について 4. 施設・設備調査の結果について 5. 岡山大学における理系女子大学院生の研究生活の実態およびニーズに関する調査の実施について 6. キャリアカフェの実施について 7. 研究スキルアップ講座の実施について 8. ニュースレター第 2 号発行について 9. シンポジウムについて 10. マスコミへの広報について 11. 岡山市民協同事業について（開催チラシ添付） 12. 第 4 回交流サロンについて 13. 来年度の「おかやまサイエンス・トーク」開催について 14. W T T 候補者予備決定について 15. 第 2 回 W T T 人事協議会議事要旨について <p>【審議事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 男女共同参画に関する行動計画の作成について 2. 新室員の担当部門について 3. メンター事業の実施について 4. 平成 23 年度研究支援員事業第 1 次募集について
--------------	---

<p>第 9 回</p>	<p>日時：平成 23 年 1 月 27 日（木）9：00～</p> <p>場所：本部棟 5 階 第二会議室</p> <p>議題：</p> <p>【報告事項】</p>
--------------	--

1. 平成 22 年度・平成 23 年度（案）男女共同参画室関係活動計画表
2. メンタリングに関する勉強会の実施について
3. 「研究シーズの知的財産化」の実施について
4. シンポジウムの実施について（12/18 開催）
5. 市民共同事業の実施について（1/23 開催）
6. ニュースレター第 3 号（案）について
7. H 2 3 年度おかやまサイエンス・トーク実施予定計画について
8. 第Ⅱ期 W T T 教員採用について

【審議事項】

1. 成果中間報告書の内容（目次）について
2. 男女共同参画に関する基本理念と基本方針について
3. 「研究支援員事業について」の改正について
4. 研究支援員事業平成 23 年度第 1 次募集に関する手続きについて
5. 人材登録バンクの利用に関する内規および様式の整備について
6. 「共同研究の心得（案）」の実施について
7. 第 4 回交流サロン（2/7（月）17：30～19：00）について
8. 新講義について（修正案）
9. 次世代女性研究者育成をテーマとした講演会の実施について

【その他】

1. アンケートの報告書について
2. 香川大学「四国女性研究フォーラム」の参加について
3. 出張報告（小畑相談員 香川大学・島根大学訪問）
4. 平成 22 年度・平成 23 年度予算について
5. 部門長会議について
6. その他

IV 平成21年度～22年度活動報告

IV-1 研究サポート体制

IV-1 (1) 人材登録バンクの設置と維持管理

① 人材登録バンクの目的

岡山大学人材登録バンク（以下、「人材バンク」とする。）は、本学の女性教員の研究活動の補助を行うにあたって必要となる専門性の高い人材を確保することを目的として設置された。当初はメンターや代替研究員、技術職員等様々な職種の人材を想定していたが、現在は本事業で雇用する研究支援員候補者のみを対象としている。

② 人材バンクシステムの整備状況

人材バンクシステムは、男女共同参画室のホームページが開設された後、本学の情報統括センターの協力によりネットワークシステム上に設置された。研究支援員となることを希望する者は、人材バンクシステムの Web ページ上で初期登録を行う。人材バンクの利用を希望する者は男女共同参画室に情報提供の依頼を行う。

平成22年7月、研究支援員事業が本格的整備されたのに伴い、人材バンクの名称を「岡山大学人材登録バンク」とした。平成22年10月、ネットワーク上での初期登録受け付け後に必要な情報を「岡山大学人材登録バンク登録申込書（様式1）」により提出することとした。

これまで本事業を超える部分については予算的措置が伴わないことから、岡山大学全体として検討すべき項目もあり、研究支援員事業利用者を対象として人材登録バンクを運営してきた。人材情報の提供も研究支援員事業の利用者募集時にのみ行ってきた。利用対象の拡大にあたり利用手続きを制度化する必要が生じたため、平成23年2月に「岡山大学人材登録バンク情報提供依頼申請書（様式2）」を整備し、人材バンクの運用および利用に関する内規を作成した。

今後、研究支援員事業の利用者以外の利用を認めるにあたってはより多くの登録者が必要であり、登録者数の拡大が課題である。人材バンクの登録者数を増やすため、平成22年度は人材バンクに関するちらしを作成し、学内の掲示板やちらし置き場等を利用して人目に触れるようにしている。また、岡山市内の図書館、保健施設、および公民館等合計62カ所にも人材バンクに関するちらしを設置するよう依頼し、人材を学外の地域社会において確保することを図っている。平成23年度には同窓会を通じて卒業生に対して協力依頼文書を送付する予定である。

登録者数は平成23年2月時点で、十分にニーズを満足させるものではないが、研究支援員事業の利用者から積極的に利用されていることから分かるように、登録者の質は高いといえよう。

③ 人材登録バンクシステムの維持管理

人材登録バンクシステムにおける情報の維持管理は男女共同参画室で行っている。図 4-1 の人材登録バンクの Web ページでの、「登録方法」のリンクを辿ると、図 4-2 の Web ページが表示される。ここでは、研究サポートを受けたいサポート利用者と研究補助業務が出来る研究支援者のそれぞれの登録ページにリンクされている。図 4-3 と図 4-4 に、サポート利用者と研究支援者の登録ページ画面をそれぞれ示す。登録されると、その内容は男女共同参画室のメールアドレス（sankaku1@adm.okayama-u.ac.jp）に電子メールにて通知される。その後、担当者が電子メールにて「岡山大学人材登録バンク登録申込書（様式 1）」を送付し、申込書を提出した方のみを登録者として認めている。

岡山大学人材登録バンク利用に関する内規

岡山大学人材登録バンク利用に関する内規

(趣旨)

第1条 この内規は、岡山大学が、求職者情報の収集・提供を通して、人材の情報を確保し、女性研究者を支援することを目的として運営するサイトである岡山大学人材登録バンク（以下「人材バンク」という。）の管理運営及び利用に関し、必要な事項を定めるものとする。

2 人材バンクは、求職に係る情報提供を行うものであり、斡旋を行うものではない。

(定義)

第2条 この内規で用いる用語の定義は、次のとおりとする。

管理者 人材バンクの管理運営を行う者。

利用者 人材バンクを利用して人材の募集を行う個人。

登録者 人材バンクへ情報を登録することについて管理者が適当と認め、その情報が登録された個人。

(管理者)

第3条 人材バンクの管理者は、ダイバーシティ推進本部男女共同参画室長とする。

2 管理者は、岡山大学のプライバシーポリシーを遵守して、適切に個人情報を取り扱うものとする。

(利用者)

第4条 利用者は、岡山大学の常勤の理系女性教員とする。

2 利用者は、人材バンクの利用に当たって、基本的人権を侵害することのないように岡山大学のプライバシーポリシーに定める個人情報の取扱いを適切に行わなければならない。

(登録者)

第5条 情報の登録を行おうとする者は、岡山大学人材登録バンク登録申込書（様式1）を管理者に提出しなければならない。

2 管理者は、前項の申請内容について確認の上、登録を行うこととする。

3 登録者は、登録された情報を変更しようとする場合は、再度、岡山大学人材登録バンク登録申込書（様式1）を管理者に提出しなければならない。

4 登録者は、登録を取り下げたい場合は、管理者に文書により申し出なければならない。

岡山大学人材登録バンク利用に関する内規

(情報提供の手続)

- 第6条 利用者は、登録者の情報提供を受けようとする場合は、岡山大学人材登録バンク情報提供依頼申請書(様式2)を管理者に提出しなければならない。
- 2 管理者は、利用者から情報提供の申請があった場合は、次の各号のいずれかに該当する場合に限り、利用者の支援希望内容等を勘案の上、相応しい登録者について、同人の承諾を得た上で、利用者に対して登録情報を提供することとする。
- 一 研究支援を必要とする理由が、出産、育児又は介護による場合
 - 二 その他管理者が必要と認める場合
- 3 利用者は、登録者の情報提供を受けたときは、利用決定の有無、利用決定した場合については条件等について、情報提供後1ヶ月以内に管理者に文書により報告しなければならない。

(自己責任原則及び免責)

- 第7条 管理者は、利用者間若しくは利用者と登録者の間での紛争やその他利用者に対する人材バンクの利用に関して生じる一切の障害についてその責任を負わないものとする。
- 2 人材バンクに登録される情報はすべて登録者の意思と選択により提供されたものであり、岡山大学はその情報の内容について一切の責任を負わないものとする。
- 3 利用者は自らの意思及び責任をもって人材バンクを利用するものとし、岡山大学はその利用によって生じる結果について一切の責任を負わないものとする。
- 4 管理者は、利用者がこの規約に違反又は故意若しくは重大な過失により、管理者に損害を与えた場合には、当該利用者に対し損害賠償を求めるものとする。

(サービスの変更等)

- 第8条 岡山大学は、利用者に予告なく人材バンクとしての情報提供等のサービスの変更又は一時的な中断を行うことがある。

岡山大学人材登録バンク登録申請書

様式1

受付番号

「岡山大学人材登録バンク」登録申込書

ダイバーシティ推進本部男女共同参画室長 殿

申込書提出日：平成 年 月 日

人材登録バンクについて下記の通り登録したいので申し込みます。
また、申請に当たっては、登録した情報を利用希望者への情報提供に用いることに同意いたします。

申込者氏名 _____ 印
(署名でも可)

1. ご本人について

フリガナ		性別
氏名		1 男 2 女
生年月日	0 西暦 1 昭和 2 平成	年 月 日 生
連絡先	メールアドレス	電話

学生の方は次の欄にご記入下さい

大学名		学年
学部・研究科名		
学科・専攻名等		

学生以外の方は次の欄にご記入下さい

現職			
最終学歴	0 卒業 1 修了 2 満期退学	学位	学士 () 修士 () 博士 ()

2. 支援について

支援希望時間(週)	週()時間以内
注)20時間以内でお願いします	
支援可能な支援内容【該当する欄に○をお書きください】	
1. 実験補助	4. 資料作成
2. 研究データ分析	5. 文献調査
3. 統計処理	6. その他()
支援可能な支援内容に関するスキルや職務経験等があればお書きください	
応募理由	

岡山大学人材登録バンク 情報提供依頼申請書

様式2

受付番号

「岡山大学人材登録バンク」情報提供依頼申請書(案)

ダイバーシティ推進本部男女共同参画室長 殿

申込書提出日: 平成 年 月 日

人材登録バンクについて下記の通り利用したいので申し込みます。
個人情報につきましては、取扱いに注意すると共に、申請内容の把握、連絡等のみに使用いたします

申請者氏名 _____ 印
(署名でも可)

1. ご本人について

フリガナ			性別
氏名			1 男 2 女
所属・職位			
生年月日	0 西暦	1 昭和	2 平成
	年	月	日 生
連絡先	メールアドレス		電話

2. 支援について

支援希望時間(週)	週()時間以内
注)20時間以内をお願いします	
支援を希望する業務内容【該当する欄に○をお書きください】	
1. 実験補助	4. 資料作成
2. 研究データ分析	5. 文献調査
3. 統計処理	6. その他()
支援を希望する業務を行う上で必要なスキルや職務経験等があればお書きください	
応募理由	

図 4-1 人材登録バンクについて（男女共同参画ホームページより）

【URL】 http://www.okayama-u.ac.jp/user/jinji/diversity/danjo/jinzai_bank.html

岡山大学人材登録バンク

岡山大学人材登録バンクとは

岡山大学では、出産・育児・介護等の理由で研究時間の確保が困難な理系(自然科学系及び生命科学系を含む)の常勤女性教員に対して、教員の指示の下に研究補助業務に従事する研究支援員を配置する「研究支援員事業」を実施しています。研究支援員事業の実施にあたっては、研究活動の補助業務を遂行することができる専門的な知識とスキルを持った優秀な人材を確保する必要があります。岡山大学人材登録バンクは、研究支援員として女性研究者を支援することができる方に登録をお願いし、女性研究者から支援の依頼があった際に速やかに研究支援員を配置できるようにすることを目的として設置されました。

女性研究者の研究支援に興味をお持ちの方へ

岡山大学人材登録バンクへの登録のお願い

女性研究者の研究支援に興味をお持ちの方は、岡山大学人材登録バンクへの登録をお願いします。

＊活動形態
研究支援員として雇用された場合は、通常6ヶ月程度にわたって週10時間から20時間、岡山大学の非常勤職員として勤務していただくこととなります。保険等はありません。

＊登録方法
まずは、下記URLで仮登録をしてください。こちらから正式な登録用紙を送らせていただきます。
<https://pr.adm.okayama-u.ac.jp/jinzai/>

活動までの流れ

女性研究者に研究支援員を配置することが決定
↓
人材登録バンク登録者の中から男女共同参画室が候補者を選抜
↓
女性研究者
↓
採用決定

岡山大学人材登録バンクの仕組み

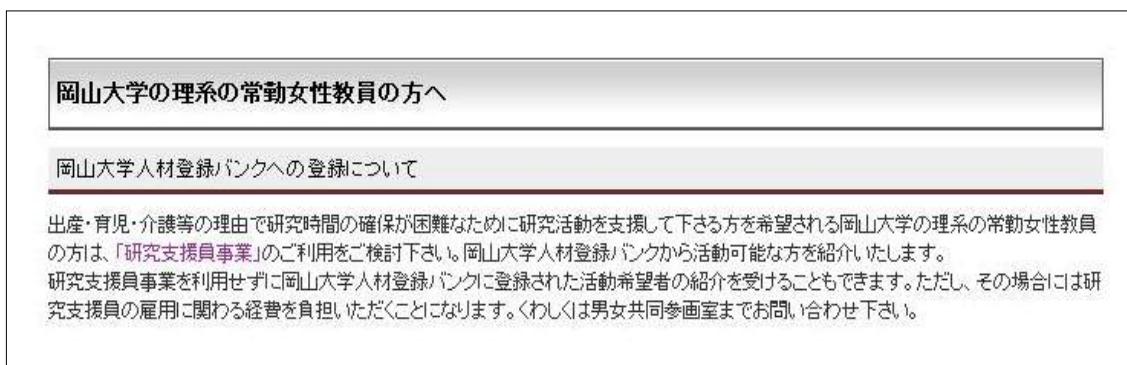


図 4-2 人材登録バンク登録受付画面

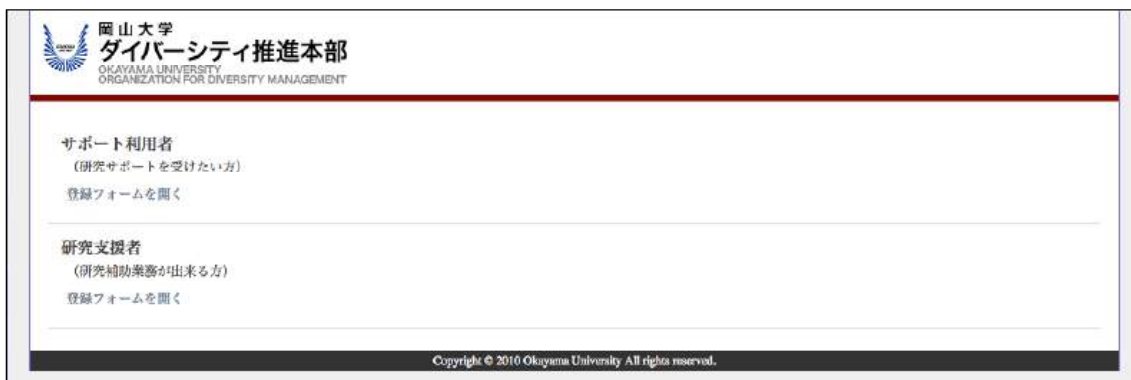
【URL】 <https://pr.adm.okayama-u.ac.jp/jinzai/modules/eguide/>

図 4-3 サポート利用者登録ページ画面

【URL】 <https://pr.adm.okayama-u.ac.jp/jinzai/modules/eguide/event.php?eid=6#form>

岡山大学
ダイバーシティ推進本部
OKAYAMA UNIVERSITY
ORGANIZATION FOR DIVERSITY MANAGEMENT

サポート利用者
(研究サポートを受けたい方)

登録

サポート利用者	
メール*	<input type="text"/>
氏名*	<input type="text"/>
ふりがな*	<input type="text"/>
所属	<input type="text"/>
職名	<input type="text"/>
サポート内容の専門分野	<input type="text"/>
支援期間	<input type="text"/>
支援希望時間 (週)	<input type="text"/>
研究支援者候補	<input type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無

* は必須項目です。

Copyright © 2010 Okayama University. All rights reserved.

図 4-4 研究支援者登録ページ画面

【URL】 <https://pr.adm.okayama-u.ac.jp/jinzai/modules/eguide/event.php?eid=7#form>

岡山大学
ダイバーシティ推進本部
OKAYAMA UNIVERSITY
ORGANIZATION FOR DIVERSITY MANAGEMENT

研究支援者
(研究補助業務が出来る方)

登録

研究支援者	
メール*	<input type="text"/>
氏名*	<input type="text"/>
ふりがな*	<input type="text"/>
所属	<input type="text"/>
職名(学年)	<input type="text"/>
専門分野	<input type="text"/>
支援希望時間(週)	<input type="text"/>

登録

*は必須項目です。

Copyright © 2010 Okayama University All rights reserved.

人材登録バンクちらし

岡山大学人材登録バンク 登録のお願い

岡山大学では、出産・育児・介護等の理由で研究時間の確保が困難な**理系**の常勤女性教員の研究補助業務を行う研究支援員を配置する事業を実施しています。

理系とは、自然科学系(理・工・農・環境等)及び生命科学系(医・歯・薬・保健等)の研究分野を指します。

出産・育児・介護等の理由で研究時間の確保が困難な女性研究者の研究支援に興味をお持ちの方は岡山大学人材登録バンクへの登録をお願いします。

***** 募集対象 *****

研究支援員として週10-20時間責任を持って有償で活動できる方。

*** 研究支援の内容 ***

研究活動に必要な補助業務。例えば、実験補助、研究データ分析、統計処理、資料作成、文献調査等。

注: 支援期間や支援時間数は支援を必要とする研究者によって異なります。また、給与は従事する職務内容および本人の学歴・経歴等に応じて異なります。

***** 登録方法 *****

! 下記のURLで、「研究支援者」としてお名前や専門分野等を入力して下さい。

http://www.okayama-u.ac.jp/user/jinji/diversity/danjo/jinzai_bank.html

! QRコードでも入力できます。



岡山大学人材登録バンクとは

研究支援員を始めとする専門性の高い人材の求人・求職に関わる情報の提供を目的として岡山大学が設置するものです。

研究支援員事業に関しては下記のURLをご覧ください。

<http://www.okayama-u.ac.jp/user/jinji/diversity/danjo/shien23.html>

お問い合わせ先

国立大学法人岡山大学
ダイバーシティ推進本部男女共同参画室
TEL/FAX: 086-251-7011
E-MAIL: sankaku1@adm.okayama-u.ac.jp
URL: <http://www.okayama-u.ac.jp/user/jinji/diversity/danjo>

IV-1 (2) 研究支援員事業の整備

① 研究支援員事業とは

進化プランでは、「研究サポート体制」を構築して出産・育児・介護等の理由により仕事と家庭の両立が難しい女性研究者を支援し、研究者の能力が十分に発揮できる研究環境を整備することを目指している。研究支援員事業は、理系の常勤女性教員に対して研究補助業務に従事する研究支援員を配置することにより研究サポートを実現するものである。

② 研究支援員事業の整備

平成 21 年度の後半に、研究サポートに関する基本的制度を整備し、研究サポート申請書などを準備して女性教員の支援を試行的に開始した。

平成 22 年度に入ってから、改めて他大学で実施されている研究支援員事業における支援内容及び支援対象を調査し、その結果を基に事業の整備を行った。整備にあたっては環境整備・支援推進部門が 5 月より 3 度にわたり部門会議を開いて原案・修正案を作成し、6 月および 7 月に開催された室会議において審議・決定した。平成 22 年 7 月 28 日付で「岡山大学ダイバーシティ推進本部男女共同参画室研究支援員事業要項」が学長裁定された。また、要項の内容を利用者にも分かりやすく説明した「研究支援員事業とは」および利用申請の手続きについても「研究支援員事業利用の手続き」を作成し、周知をはかった。

その後、平成 22 年 10 月に事業の利用資格である「理系」の定義を本学教職員に対して明確に示すことを目的として要項を改正した。また、平成 23 年 2 月に研究成果の取扱いについてのトラブルを避けるために守秘義務に関する誓約書を整備し、これに伴い「研究支援員事業とは」を修正した。

なお、介護を理由とする研究支援員事業の利用を希望する者に対しては、事業費の支出は認められていないが、進化プランの趣旨に合わせて本学独自の経費で支援していくことにしている。

表 1 研究支援員事業の整備に関するこれまでの経過

	年月日	内 容
1	平成 22 年 5 月 28 日	環境整備・支援推進部門会議にて研究支援員事業の基本的な方向性を検討
2	平成 22 年 6 月 14 日 ～平成 22 年 6 月 18 日	環境整備・支援推進部門会議にて「研究支援員事業要項」および「研究支援員事業とは」の原案を検討（メール会議）
3	平成 22 年 6 月 24 日	男女共同参画室会議にて「研究支援員事業要項」および「研究支援員事業とは」の原案を審議・決定
4	平成 22 年 7 月 9 日	環境整備・支援推進部門会議にて「研究支援員事業要項」および「研究支援員事業とは」の修正案を検討
5	平成 22 年 7 月 22 日	男女共同参画室会議にて「研究支援員事業要項」および「研究支援員事業とは」の修正案を審議・決定

6	平成 22 年 7 月 28 日	「ダイバーシティ推進本部男女共同参画室研究支援員事業要項」制定
7	平成 22 年 10 月 21 日	「ダイバーシティ推進本部男女共同参画室研究支援員事業要項」改正
8	平成 23 年 2 月 1 日	「研究支援員事業とは」修正

③研究支援員事業の利用の現状

平成 23 年 2 月現在の研究支援員事業の利用状況を以下に示す。

表 2 研究支援員事業利用状況（平成 23 年 2 月現在）

	所属	職位	利用開始時期	支援員数	時間（週）計
1	大学院環境学研究科（農）	准教授	H22/3	2 名	5 時間
			H22/6		15 時間
2	大学院医歯薬学総合研究科（歯）	助教	H22/3	2 名	10 時間
			H22/3		10 時間
3	大学院医歯薬学総合研究科（歯）	助教	H22/10	1 名	20 時間
4	大学院医歯薬学総合研究科（歯）	助教	H22/10	1 名	17.5 時間
5	大学病院	助教	H23/1	1 名	17 時間
6	大学病院	助教	H23/1	1 名	12 時間

表 3 研究支援員事業の利用に関するこれまでの経過

	年月日	内容
1	平成 22 年 3 月 23 日	旧制度による研究支援員 2 名利用開始
2	平成 22 年 8 月 6 日～ 平成 22 年 8 月 31 日	平成 22 年度第 1 次募集
3	平成 22 年 9 月 10 日	平成 22 年度第 1 次募集分 面接実施
4	平成 22 年 9 月 21 日	旧制度による研究支援員 1 名利用開始
5	平成 22 年 10 月 16 日	平成 22 年度第 1 次募集分 1 名利用開始
6	平成 22 年 11 月 1 日～ 平成 22 年 11 月 30 日	平成 22 年度第 2 次募集
7	平成 22 年 12 月 2 日	平成 22 年度第 2 次募集分 面接実施
8	平成 23 年 1 月 4 日～ 平成 23 年 1 月 31 日	平成 23 年度第 1 次募集
9	平成 23 年 1 月 16 日	平成 22 年度第 2 次募集分 2 名利用開始
10	平成 23 年 2 月 10 日	平成 22 年度第 2 次募集分 面接実施

岡山大学ダイバーシティ推進本部男女共同参画室研究支援員事業要項 (1/2pg)

岡山大学ダイバーシティ推進本部男女共同参画室研究支援員事業要項

平成22年7月28日

学 長 裁 定

一部改正平成22年10月27日

(趣旨)

第1条 この要項は、女性研究者に対する支援の一環として、出産・育児・介護等の理由で研究時間の確保が困難な理系の常勤女性教員（以下「女性研究者」という。）を対象にして、女性研究者の指示の下に研究補助業務に従事する研究支援員を配置する研究支援員事業（以下「研究支援員事業」という。）について、必要な事項を定める。

(利用資格)

第2条 研究支援員事業を利用できる女性研究者は、生命科学系及び自然科学系の学問分野、またはこれらの理系の学問分野と人文・社会科学との融合領域の研究を行っている常勤教員であって、次の各号の1に該当する者とする。 — 妊娠中の者

二 小学校6年生までの児童を養育している者（主として当該女性研究者が養育している場合に限る。）

三 家族に要介護者もしくは要看病者がいる者（主として当該女性研究者が介護もしくは看病している場合に限る。）

2 前項の規定にかかわらず、産前産後休暇又は育児休業中の場合は、原則として研究支援員事業は利用できないものとする。

(支援内容)

第3条 研究支援員事業による支援の内容は、研究支援員事業利用者（以下「利用者」という。）の研究活動に必要な実験補助、研究データ分析、統計処理、資料作成、文献調査等の研究補助の業務とする。

2 前項の支援は、当該年度内において、原則として6ヶ月間までとする。ただし、再申請することを妨げない。

(利用申請)

第4条 研究支援員事業利用の申請は、ダイバーシティ推進本部男女共同参画室（以下「男女共同参画室」という。）が別に定める期間に、所定の様式により行うものとする。

(選考)

第5条 利用者の選考は、緊急性があること又は支援の効果が見込まれることを優先する

岡山大学ダイバーシティ推進本部男女共同参画室研究支援員事業要項 (2/2pg)

ものとし、男女共同参画室会議において行う。

(研究支援員)

第6条 研究支援員は、前条の規定により承認された申請について採用するものとし、男女共同参画室付として採用し、利用者の所属部局に配置する。

- 2 研究支援員は、非常勤職員として採用する。
- 3 研究支援員は、原則として人材登録バンクの登録者から採用する。
- 4 本学の大学院生又は学部学生を研究支援員として採用する場合は、次の各号の要件を満たさなければならない。
 - 一 学生としての本分に支障がないこと。
 - 二 指導教員の了承を得ていること。
 - 三 履修登録科目と重複しない時間帯に勤務すること。
 - 四 すでにリサーチ・アシスタント (RA) もしくはティーチング・アシスタント (TA) として雇用されている場合は、RA もしくは TA と研究支援員の合計勤務時間が週20時間以内であること。
- 5 研究支援員の勤務時間は、週20時間を超えないものとする。
- 6 研究支援員の任期は、第3条第2項の規定に基づき承認された研究支援員事業の利用期間を限度とする。

第7条 研究支援員は、利用者又は利用者によって指定された代理人の監督・指示の下、第3条第1項に掲げる研究補助業務に従事するものとする。

(報告)

第8条 利用者は、利用期間終了時に利用報告書を提出しなければならない。

(雑則)

第9条 この要項に定めるもののほか、研究支援員事業に関し必要な事項は、男女共同参画室長が別に定める。

附 則

この要項は、平成22年8月1日から施行する。

附 則

この要項は、平成22年10月27日から施行する。

研究支援員事業とは (1/4pg)

研究支援員事業とは

1. 趣旨

岡山大学では、文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」事業として平成21年度に採択された「学都・岡大発 女性研究者が育つ進化プラン」の下、女性研究者の支援に取り組んでおります。この度男女共同参画室では、女性研究者に対する支援の一環として、出産・育児・介護等の理由で研究時間の確保が困難な理系の常勤女性教員を対象にして、女性教員の指示の下に研究補助業務に従事する研究支援員を配置する研究支援員事業を実施いたします。

2. 利用対象・資格

(1) 利用対象

本学に所属する理系の常勤女性教員（特別契約職員を含む）を支援の対象とします。理系とは、生命科学系及び自然科学系を含む幅広い学問分野を指します。また理系の学問分野に加えて、理系の学問分野と人文・社会科学との融合領域における研究を行っている教員も対象とします。

(2) 利用資格

a. 出産

妊娠中の方。母子手帳のコピーにより資格を確認させていただきます。

b. 育児

小学校6年生までの子どもをご自身が主として養育している方。子どもの年齢を証明できるもの（健康保険証もしくは住民票の写し）のコピーにより資格を確認させていただきます。

c. 介護・看病

要介護者・要看病者である家族をご自身が主として介護・看病している方。市町村による要介護認定等を証明できるもの（介護保険被保険者証等）（もしくは家族の入院や疾病状況を証明、あるいは説明できるもの（診療費の領収書等））のコピーにより資格を確認させていただきます。

*原則として、産前産後休暇・育児休業中の方の研究支援員事業の利用は認めておりません。特別な事情があつて利用を希望される方は男女共同参画室にご相談下さい。

3. 支援内容

出産・育児・介護等により研究時間の確保が困難な女性教員に対して、研究支援員を1回の承認された申請につき最大6ヶ月間配置し、教員の研究活動に必要な研究補助業務（実

研究支援員事業とは (2/4pg)

験補助、研究データ分析、統計処理、資料作成、文献調査等)をあらかじめ定められた場所において行ないます。支援時間は週 20 時間を限度とします。

よくある質問

Q. 6ヶ月間以上にわたって事業の利用を希望する場合はどうしたらよいでしょうか？

A. 研究支援員事業では 1 回の申請につき最大 6ヶ月間の利用しか認めておりません。6ヶ月以上の利用を希望する場合は再申請して下さい。なお、事業利用中であっても募集に申請することができます。

Q. 複数の研究支援員に業務を分担してもらうことは可能ですか？

A. 複数の研究支援員が勤務する時間の合計が週 20 時間以内であれば可能です。また、期間をあらかじめ区切った上で、それぞれの期間に異なる研究支援員を雇用することも可能です。

4. 利用申請

- ・研究支援員事業への利用申請は、所定の募集期間中に行って下さい(年複数回募集予定)。
- ・年度内であれば、募集の時期に関わらず希望する時期に利用を開始することができます。
- ・現在事業を利用中の方あるいは過去に利用したことがある方が再申請をすることは可能です。

よくある質問

Q. 1月から利用を開始して6ヶ月間利用することはできますか？

A. 研究支援員事業では、1月から利用を開始して6ヶ月間続けて利用することはできません。ただし、6ヶ月間に満たなかった期間についてのみ継続を希望する場合(この場合は6月までの3ヶ月間)は、翌年度の採択において優先させていただきます。

5. 選考・採択

・利用申請者の申請資格を研究支援員利用申請書(別紙様式1)等により確認させていただいた上で、男女共同参画室会議におかれた利用者選考委員会が、利用申請者によって提出された申請書等および面接により慎重かつ厳正に審査します。男女共同参画室会議では、審査の結果を基に利用者および支援内容の決定を行います。

・予算等の都合により、申請された支援期間や支援時間よりも縮小あるいは減少することがあります。

・利用者の選定にあたっては、支援が緊急性を有するものおよび支援による効果が見込ま

研究支援員事業とは (3/4pg)

れるものを優先します。研究支援員利用申請書（別紙様式1）には、支援が必要な状況が分かるように、子どもの年齢や数、保育の状況等についてできるだけ具体的に記述してください。また、支援による効果が分かるように、研究支援員が行う業務内容及びその研究上の位置づけについても具体的に記述してください。

・年度の終わりに利用を開始したために利用期間が6ヶ月間に満たなかった方が翌年度に当該期間分のみの継続申請をする場合、その申請は採択にあたって優先されます。

6. 研究支援員

(1) 研究支援員の配置

研究支援員の配置は、原則として人材登録バンクに登録している人材から行います。採択が決定された利用申請者は、人材登録バンク登録者の中から研究支援員として適当であると思われる者を選定します。利用申請者が研究支援員候補者を推薦する場合は、候補者に対して事前に人材登録バンクに登録するように指示して下さい。

本学在籍中の学部生・院生を研究支援員として配置することもできます。その場合は、人材登録バンクに登録していることを確認するとともに、以下の事項に注意して雇用調書兼申立書(別紙様式2)を提出してください。

- ✓ 学生としての本分に支障がないこと。
- ✓ 指導教員の下承を得ていること。
- ✓ 履修登録科目と重複しない時間帯に勤務すること。
- ✓ すでにRAあるいはTAとして雇用されている学生の場合、RAあるいはTAとしての雇用と研究支援員としての雇用との合計勤務時間が週20時間以内であること。

(2) 研究支援員の雇用条件

研究支援員には、従事する職務内容および本人の学歴・経歴等に応じて、以下の給与が支給されます。

博士取得者	時給 1,700 円
学士取得者	時給 1,100 円
その他	時給 830 円

(3) 研究支援員の受入

・研究支援員の受入にあたっては、男女共同参画室の室員と利用者が事業の趣旨や業務内容について研究支援員に対して説明します。

(4) 研究支援員の業務内容・勤務時間等

研究支援員事業とは (4/4pg)

・研究支援員が支援できる業務は利用者の研究補助に限定されます。勤務時間中に支援員自身の研究や学習等、支援業務以外の活動に従事することはできません。

よくある質問

Q.利用者とは研究支援員の研究分野が同じであるため、支援業務と支援員自身の研究とを分けることが難しい場合はどうしたらよいのでしょうか？

A. 研究支援員は職務専念義務に従い、利用者の研究テーマに直接関係する補助業務のみを行うようにしてください。なお、支援を受ける研究課題に関する研究成果は、当然ながら利用者に帰属いたします。

・研究支援員は、利用者もしくはその代理人による監督の下、前もって決められた勤務時間内に勤務するものとします。原則として夜間・週末・祝祭日の勤務はできません。

7. 報告

・利用者は、毎月初日までに研究支援員の勤務時間管理兼超過勤務命令簿および月間利用報告書(別紙様式3)を男女共同参画室に提出してください。また、利用期間終了後1週間以内に利用報告書(別紙様式4)を提出してください。

・特別な事情により産前産後休暇・育児休業中に制度を利用する場合は、利用者もしくは代理人の指示の下に研究支援員が業務を行っていることが分かるような経過報告(様式任意)を参画室からの求めに応じて行っていただきます。

・事業の利用中に問題が生じた場合には、速やかに男女共同参画室に報告または相談し、その指示に従ってください。本事業の利用ルールが守られない場合には、支援の停止および以降の採択を見合わせる場合があります。

8. 留意事項

・その他研究支援員事業の利用手続きは、別に定める利用の手続きを参照して下さい。

・研究支援員には、職務上知ることのできた秘密を他に漏らしてはならないという守秘義務に関する誓約書(様式5)に署名をしていただきます。なお、研究成果の取り扱い等のトラブルが発生した場合、男女共同参画室では責任を負いかねますので、利用申請者と研究支援員の間で事前に十分話し合い、確認を行っておいてください。

申請先・問い合わせ先

〒700-8530

岡山市北区津島中1丁目1番1号

岡山大学ダイバーシティ推進本部男女共同参画室

TEL/FAX: 086 - 251 - 7011

E-MAIL: sankaku1@adm.okayama-u.ac.jp

平成22年7月28日作成

平成22年10月28日修正

平成23年2月1日修正


研究支援員事業利用の手続き (1/2pg)

研究支援員事業利用の手続き

(平成 29 年 2 月 1 日現在)




「研究支援員事業利用の手続き」では、研究支援員事業の利用を申請するにあたって必要な書類や手続き、留意事項について説明しています。研究支援員事業については「研究支援員事業とは」をお読み下さい。

1. 申請

 研究支援員事業の利用申請にあたっては、下記のうち必要な書類を男女共同参画室まで学内便あるいは郵送により提出してください。



利用申請のための提出書類

- (1) 研究支援員利用申請書（別紙様式 1）
- (2) 応募資格確認書類
 - a. 出産の場合
 -  母子手帳のコピー
 - b. 育児の場合
 -  健康保険証もしくは住民票の写しのコピー（子どもの年齢を証明できるもの）
 - c. 介護・看病の場合
 -  介護保険被保険者証等（市町村による要介護認定等を証明できるもの）、もしくは診療費の領収書のコピー（家族の入院や疾病状況を証明できるもの）
- (3) 雇用調書兼申立書（別紙様式 2）（研究支援員候補者が本学在籍中の学部生・院生の場合）
- (4) その他




*** 申請にあたっての留意事項 ***

- > 利用申請者は、研究支援員候補者に対して研究支援員制度の概要及び業務内容、勤務時間等について十分に説明し、内諾をあらかじめ取った上で申請書を提出してください。また、候補者に対し申請が採択されない場合もあることをあらかじめお伝えください。
- > 利用申請者は、所属する研究室の教員等と十分な相談の上、申請を行ってください。利用申請者自身が所属する研究室の代表者でない場合は、申請書の所定の箇所にて代表者による承認を得てください。
- > 提出された利用申請書等は原則として返却しません。申請書等は厳重に管理し、申請書等に記載された個人情報、対象者としての資格確認および選考・支援内容決定の判断にのみ利用させていただきます。
- > 利用申請書等の記載内容に変更が生じた場合は、速やかに男女共同参画室に連絡してください。


研究支援員事業利用の手続き (2/2pg)

2. 選考・採択

 利用申請者の申請資格を確認させていただいた上で、男女共同参画室室会議におかれた利用者選考委員会が、利用申請者により提出された申請書等および面接により慎重かつ厳正に審査します。男女共同参画室室会議では、審査の結果を基に利用者および支援内容の決定を行います。

 決定が行われ次第、利用申請者全員に採択結果及び支援内容を通知します。

3. 研究支援員の雇用

 制度の利用が認められた利用申請者は、研究支援員の雇用にあたっては下記のうち必要な書類を男女共同参画室まで学内便あるいは郵送により提出してください。

 雇用手続きが終了し次第、研究支援員を非常勤職員として雇用し、配置します。

**研究支援員雇用のための提出書類**

- (1) 履歴書
- (2) 最終学歴の証明書（学位記・修了書の写し等）
- (3) 外国人の場合は、外国人登録証明書のコピー（両面）もしくはパスポートのコピー（在留資格・在留期限の箇所）
- (4) その他



申請先・問い合わせ先
 〒700-8530
 岡山市北区津島中1丁目1番1号
 岡山大学ダイバーシティ推進本部男女共同参画室
 TEL/FAX: 086 - 251 - 7011
 E-MAIL: sankaku1@adm.okayama-u.ac.jp

様式1 研究支援員利用申請書

様式1

研究内容	支援を求むとする研究の課題及び種別を全部範囲の条件状況について記入して下さい。	
利用希望期間	平成 年 月 日 ～ 平成 年 月 日	
利用希望時刻	週 時間	
希望曜日・時間	申請内容での希望曜日及び時間等を記載ください。 月・水・木・金 1 時 分 ～ 時 分	
研究支援員の業務内容	希望する研究支援業務の内容を具体的に詳細に記入してください。	
研究推進効果の見込み	支援員を利用することにより見込まれる成果の概略や研究の成果等について具体的に記述してください。	
候補者の有無	有・無	
候補者名	候補者名を記入してください。	
候補者1の氏名・所属	氏名: 職名・学年:	
候補者2の氏名・所属	氏名: 職名・学年:	
候補者3の氏名・所属	氏名: 職名・学年:	
候補者4の氏名・所属	氏名: 職名・学年:	
研究支援員の推薦理由	研究支援員に、候補者として推薦する者がある場合は、理由を必要に応じて詳細に記述してください。	
利用申請者の氏名	氏名: 印	
利用申請者の職名	職名: 印	
利用申請者の所属	所属: 印	
利用申請者の氏名	氏名: 印	

様式1 研究支援員利用申請書

様式1

研究支援員事業利用申請書

男女共同参画推進課

申請書提出日: 平成 年 月 日

受付番号

下記の通り研究支援員事業の利用を申請しますので、よろしくお取り扱いをお願いします。

所属		
職名	印	
式名	印	
連絡先	電話:	FAX:
申請資格	該当する資格を○で囲んで下さい。	
申請資格の確認	「出産」の場合	出産予定日 年 月 日 *母子手帳のコピーを申請書に添付してください。
	「育児」の場合	第1子 満 歳 ヶ月 第2子 満 歳 ヶ月 第3子 満 歳 ヶ月 第4子 満 歳 ヶ月 *小学校5年生以下の子どもを1人または2人以上飼育していること。 *子ども1人の年齢を証明できるもの(健康保険証または住民票の写し)のコピーを申請書に添付してください。
	「介護・看病」の場合	介護・看病が必要となる家族の要介護・要介護の程度を記入して下さい。 *市町村による要介護認定を証明できるもの(介護保険受給者証)または家族の介護や看護状況を証明、あるいは説明できるもの(介護保険受給者証)のコピーを申請書に添付してください。
研究サポートを必要とする理由	現在の出産・育児・介護等によって研究期間の確保が困難である状況について具体的に記述してください。	

様式3 月間利用報告書

研究支援員事業月間利用報告書

様式3

所属					
職名					
式着					
連絡先	電話:	FAX:			
	E-MAIL:				
研究支援員 利用期間・時間	氏名:	平成 年 月 日	～	平成 年 月 日	週 時間

研究支援員 活用の状況	活用の状況	活用の状況	活用の状況	活用の状況	活用の状況	活用の状況	活用の状況	活用の状況	活用の状況
月	月	月	月	月	月	月	月	月	月
1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

研究支援員 活用の状況	活用の状況	活用の状況	活用の状況	活用の状況	活用の状況	活用の状況	活用の状況	活用の状況	活用の状況
月	月	月	月	月	月	月	月	月	月
1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

注：満足度を表す数字は、次のような基準でお願いいたします：
 1：不満足、2：やや不満足、3：普通、4：やや満足、5：満足

様式2 雇用調書兼申立書

雇用調書兼申立書

様式2

氏名	甲	昭和 年 月 日 平成 (才)	性別	男・女
所属	大学院 研究科(課程) 母攻(第 学年)在学	学生番号	国籍	
現住所	〒			
	電話	E-MAIL		

1. 雇用予定内容

採用期間	平成 年 月 日	～	平成 年 月 日
職名			
職務内容			
勤務形態	曜日	勤務時間	時間数
	時分	～ 時分	時間
	時分	～ 時分	時間

2. 本人の授業受講状況

受講状況	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限	受講授業を下記の通り左記の該当欄に記入すること。 「前」：前期のみ 「後」：後期のみ 「通」：通年
	月	月	月	月	月	
	火	火	火	火	火	
	水	水	水	水	水	
	木	木	木	木	木	
	金	金	金	金	金	

3. 現在、採用されているRAA及びTAの勤務状況(所在地も勤務しているものを記入してください。)

採用期間	平成 年 月 日	～	平成 年 月 日
採用学科・専攻名称	担当教員		
曜日	勤務時間	時間数	備考
	時分	～ 時分	時間
	時分	～ 時分	時間
	時分	～ 時分	時間

上記学生の雇用にあたり、授業及び研究指導には全く支障がありません。
 主任指導教員 _____ 印

様式5 守秘義務に関する誓約書

様式5

国立大学法人 岡山大学
ダイバーシティ推進本部
男女共同参画室長 殿

守秘義務に関する誓約書

私は、以下の事項を厳守することをここにお願い致します。

記

- 1 職務上知り得た研究および技術に関する秘密情報に関して、勤務監督者である研究支援員事業利用者の許可なく発表、公開、漏洩、利用しないこと。
- 2 私が退職した後も、勤務中と同様に、業務上知り得た研究および技術に関する秘密情報を研究支援員事業利用者の許可無く発表、公開、漏洩、利用しないこと。
- 3 個人情報は細心の注意を払い、個人情報保護法の規定の範囲を超えた利用をしないこと。

平成 年 月 日

住所

氏名 (サイン)

様式4 利用報告書

様式4

男女共同参画室長 殿

報告書提出日：平成 年 月 日

研究支援員事業利用報告書

下記の通り研究支援員事業の利用実績を報告します。

所属	
職名	
氏名	印
連絡先	FAX: _____
	E-MAIL: _____
研究支援員	氏名: _____
利用期間・時間	平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日 週 時間
業務内容	利用期間と内容を詳しく説明し、また必要事項についてお答えください。
研究支援員	研究支援員は期待とおりの支援をいたしました。 ・期待通りであった ・どちらともいえない ・期待通りでなかった どのような点が期待通りもしくは期待通りでなかったのか具体的に説明してください。
期待推薦における効果	研究支援の達成状況について研究支援員の利用の効果があるようにお書きください。
その他の面での効果・改善	研究支援員制度の利用により、期待通りの研究上の成果は得られました。 ・期待通りであった ・どちらともいえない ・期待通りでなかった 研究支援員事業の利用により、期待外れや課題等について、あるいは期待通りの期待が実現していない理由の改善や改善があった場合はお書きください。
事業利用についての感想	研究支援員事業を利用する上で困った点や今後改善してほしい点があればお書きください。

注:本報告書に記載された内容は、事業推進の参考にさせていただくだけに使わせていただきます。

IV-1 (3) メンター事業の導入

①メンター事業の検討

本事業は経験豊かなメンター教員により、女性研究者を教育研究面で支援することを目指している。事業1年目は、平成22年度からスタートするWTT教員のためのメンター事業に必要なメンター教員の養成を目的としてメンター養成研修を実施した。

事業2年目は、メンター事業の全学的な本格的導入を目指して検討を行った。環境整備・支援推進部門では8月から9月にかけてメンター事業のあり方について検討し、男女共同参画室会議にメンター事業の概要を提案した。これを基に室会議では事業の対象やメンタリングの形態について数度にわたり検討を行ってきた。

これまでのところ、全ての新任教員に対して複数のメンターを提供する制度を構築することを最終目標に、女性教員を対象としたメンター事業を平成23年度に試行的に実施することが決定されている。加えて、他大学でもメンター事業は手探りで実施されていることを踏まえ、本学におけるメンター事業はどのようなものであるべきかという点について引き続き検討することになっている。検討にあたっては、本学の若手教員が成長する上でどのようなニーズを抱えており、先輩教員に対してどのような役割を期待しているか、メンターとなることに対して教員はどう感じているのかについて実態を把握することが重要であるとの認識から実態把握を行うことにしている。

なお、事業2年目のメンター養成研修の実施については数度にわたって室会議で検討を重ね、研修実施団体との打合せも行った。しかしながら、大学におけるメンタリングのあり方についてのイメージが明確でない現段階では、メンター教員の養成に必要な知識やスキルに関する研修を行うことは難しいと判断し、研修の実施を見送った。

表1 メンター事業に関する主な行事

年月日	内容
平成21年12月7日・8日	メンター養成研修実施
平成22年4月1日	第I期WTT教員採用、各1名のメンター教員配置
平成22年11月11日	メンタリングに関するセミナー
平成22年12月16日・21日・22日	第1回メンタリングに関する勉強会（3回とも同一内容）
平成23年1月20日・25日	第2回メンタリングに関する勉強会（2回とも同一内容）

IV-1 (3) ②メンターの養成

文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」
「学都・岡大発 女性研究者が育つ進化プラン」
メンター養成研修

1. 主催：岡山大学ダイバーシティ推進本部男女共同参画室
2. 日時：平成21年12月7日（月）9：00～17：00
平成21年12月8日（火）9：00～17：00
3. 会場：岡山大学 本部棟 6階 第1会議室（津島キャンパス）
4. 受講者：本学の教職員，後期博士課程の学生院生（受講者36名）
5. 目的：
コーチング，ティーチングおよびカウンセリングの3つのスキルを，その場の状況，対象者に合わせて効果的に使い分け，メンティの可能性を最大限に引き出しながら，適時助言をし，人生相談にもものれる信頼のおけるメンター職員を養成することを目的とする。
6. プログラム：（両日とも同じ内容）

1) 開会
司会： 本水 昌二（岡山大学男女共同参画室員・特任教授）【12月7日】 五福 明夫（岡山大学男女共同参画室員・自然科学研究科 教授）【12月8日】
2) 開会の挨拶（9：00～）
沖 陽子（岡山大学男女共同参画室長・岡山大学大学院環境学研究科 教授）
3) 研修（9：10～）佐々木 宏（社団法人日本能率協会 協力講師）
研修内容 【9：10～9：40】 アイスブレイク 【9：40～10：30】 メンターとは 1 【10：40～12：00】 メンターとは 【13：00～14：00】 コーチングによる発問法を学ぶ 【14：10～15：10】 カウンセリングによる信頼関係の構築を学ぶ 【15：20～16：10】 ロールプレイ part 1 【16：15～17：00】 ロールプレイ part 2
3) 修了証書授与（17：05）
（授与者数：35名）

4) 閉会の挨拶 (17:10)

司会： 富岡 憲治 (岡山大学男女共同参画室員・自然科学研究科 教授) 【12月7日】

沖 陽子 (岡山大学男女共同参画室長・環境学研究科 教授) 【12月8日】

【概要】

今回は、学生や部下を指導する立場の全教職員と、博士後期課程の大学院生を対象に受講者を募ったところ、37名の応募があり、36名がメンター養成研修を受講した。

4人が1班として机につくように、受講者人数に合わせて会場を設営した。また、班の構成は任意とした。

まず、受講者はお互いを知らないため、堅い雰囲気のを和らげるために、4人の「共通項探し」なる情報交換をして口慣らしをした。

メンターに期待される役割、あり方、心得からコーチング、ティーチング、カウンセリングの違い等を講義と演習を交えてグループワークで学び、項目ごとに、気づきの発表がなされた。昼食休憩後には、コーチングによる発問法と質問と発問の違いを学び、発問を創る演習をグループワークで行った。カウンセリングによる信頼関係の構築法を聞き、その後、メンティ、メンター、オブザーバー役に分かれてロールプレイを行った。

受講者の多くから、「メンターとは何か、何が役割で、何をすべきか」がよくわかり、また、メンティとの信頼関係を構築する方法、潜在能力を引き出す具体的な方法、コーチングのための発問法、非言語から読み取ることの重要性、など多くのことを学ぶことができて、大変有意義であったという感想が聞かれた。また今回の研修は、学生への論文指導や講義の進め方にも参考になり、発問法を学べたことは、「考える」学生を育成する意味でも大きな効果があった。コミュニケーションスキルは、実践と練習を重ねて得られるものであることから、ロールプレイは、意見や本音を引き出すタイミングを実際に体験できる機会となり、理解の深まりに繋がった、などの感想が寄せられた。



【参加者へのアンケート結果】

「学都・岡大発 女性研究者が育つ進化プラン」
 メンター養成研修アンケート（回答者数 34人）

H21. 12. 7・8

1 本日のメンター養成研修の全体の内容について

イ. 参加してよかった。

→具体的に何が良かったか

- ・発問ということの重要性
- ・カウンセリングの仕方
- ・ロールプレイ
- ・メンターの意味が少し理解できた。
- ・メンタリングとは何か少し理解できた。
- ・講義だけでなく、ロールプレイもありイメージしやすかった。
- ・メタレベルの認識になることの大切さを知った。
- ・ロールプレイやセッションの間の問いかけが参考になった。
- ・ロールプレイほか実技を行うことができた。
- ・参加してよかったが、一日というのは長い。やることについての意義とか、メンターのプロジェクト内での位置、プロジェクト外（大学内）での位置付けの説明がもっと前情報としてあればよかった。
- ・メンターの役割が具体的でわかりやすかった。
- ・メンターの言葉は知っていたが、具体的な方法・内容が理解できた。
- ・技術として話の聞き方や発問の仕方を学ぶことができた。
- ・具体的にコーチングについて学べた。
- ・グループワーク・ロールプレイにおいて、発問の感覚・傾聴してもらう体験ができたこと。
- ・メンタリングについて事例・演習を交えて学べたので、理解が深まった。
- ・悩みが軽減した。
- ・聞いてもらう体験。
- ・自分自身を振り返ることができた。
- ・コミュニケーションの取り方のポイントがはっきり整理されていた点。
- ・「聴くこと」「この人に話したい」と思ってもらえるような信頼関係を築くことの大切さを実感できたこと。
- ・相談（問題）に対しての、対応の仕方の取っ掛かりができた気がする。

ハ. 参加しない方がよかった。

- ・何を話したいのか理解できないので退席した。行動を「言葉で定義」することが目的化していると感じた。

2 プログラムの中で良かった事、特に関心があった事柄

- ・ロールプレイ
- ・実際に発問をつくり、メンタリングをすることができたこと。
- ・コーチングのテクニックの区別を認識できた。
- ・発問と質問の違い、発問の難しさを感じもっとスキルをつけたいと思った。
- ・発問の仕方を学ぶことで、発想の転換が可能になること。
- ・発問法を学べたこと。セッションごとに振り返りがあったこと。
- ・知らなかった情報が得られ、知っていた事についても、改めて認識することができた。
- ・コーチングによる発問法で数量化するという発想は、具体的解決に役立つのではないかと、ロールプレイも充実していた。
- ・発問の大切さ、答えがメンティの中にあること、聞くだけでも十分なメンタリングになるということがわかった。聞き上手になることの大切さを感じた。
- ・発問の重要性。
- ・発問の仕方について実践できてよかった。自分にはまだまだ発問力がない事に気づけたことが収穫だった。
- ・様々な事例を聞くことができた。
- ・コーチング、ティーチング、カウンセリング、メンタリングであることの知識。
- ・発問のつくり方、相手の中から答えを引き出すという感覚をつかむことができた。
- ・他の領域の先生方とグループワークやロールプレイを通して交流できたこと。
- ・教材がわかり易かった。事例が多かったのでイメージが付きやすかった。
- ・信頼関係の構築が大切であること。
- ・メンターにはなれないが、コーチング等の可能性があることがわかったこと。
- ・視点を変える「もしも」の事例はわかりやすかった。
- ・ロールプレイは楽しかったし、わかりやすかった。
- ・コミュニケーションは受け手が中心であること。
- ・うつ病の人に対する扱い。
- ・「目的・目標に意味付けをすること」が心に残った。
- ・カタカナ言葉が多用され、理解したような気になることが実証されたこと。

3 プログラムの中でわかりにくかった内容

- ・答えは、相手の中。と言われましたが、この答えが組織の理念に反し、医療の質を落とすことになる場合どうしたらいいのか・・・

- ・言葉のキャッチボール。相手が球を全く投げしてくれない場合、また、受けたくても受けられないのはどうしたらいいか・・・
- ・オートクラインとのかかわり方。
- ・ロールプレイやグループ間討議の時間がもう少し長くてもよかったのではないかな。
- ・グループ間討議が不燃焼した感じ。
- ・信じる事について、信じきれないときどうしたらいいのかな、分からなかった。
- ・理論の部分、特に役割。メンターとは結局何なのかな。
- ・メンタリングのタイミングや、各メンティ・メンターの選択。
- ・ティーチング、コーチングの使い分けの難しさ。無意識に使い分ける事を意識化することの重要性を再認識した。
- ・どこまで介入するべきかが知りたかった。
- ・心理学等の専門用語が分かりにくい。
- ・相手の背景を知るための方法がよく分からなかった。発問法やコーチングはよくわかったが、心を開かせていく過程についてももっと知りたかった。
- ・カウンセリングに関してもっと学びたかった。
- ・大学組織の中に今後、メンターの役割を取り入れるための取り組みだったのかな？組織の質を改善するため（挑戦意識・自己表現・他者肯定）には、専門的メンターが少数いた方がいいのかな？広く浅く知識をもった教員がたくさんいた方がいいのかな？
- ・男性への対応について活かして欲しかった。
- ・すごく自信過剰な人に等身大の自分をみてもらうことは、メンタリングではあまり重視しないのかな？メンターの条件？
- ・岡大として、どのような位置付けの養成研修なのかな、わかりにくかった。
- ・少し進みが早かったなので、理解に時間がかかるときがあった。
- ・発問集の内容が盛り沢山で、使い切れなかった。
- ・「非言語を読み取る」という部分がよくわからなかった。
- ・ロールプレイはとても難しかった。
- ・発問の仕方のイメージを掴みにくかった。
- ・信頼関係構築の具体的な方法を教えてもらいたい。
- ・カタカナ言葉（プラスチックカード）を全廃してほしい。

4 メンター研修で取り入れてもらいたい内容

- ・もし可能であれば、メンタリングもしてほしい。
- ・上手なほめ方、しかり方。
- ・職員の勤務評価の際の面談にも十分活用できる内容である。
- ・メンターになるには、更なる研修が必要。
- ・年に何回か開催してほしい。

- ・もっと練習できる場をつくってほしい。
- ・ハラスメントに関わる問題も含めてほしい。
- ・実技面，スキル面の研修の充実。ステップアップ研修を行ってほしい。
- ・アーサーティヴィネス研修とか，引き続き佐々木先生か森田ゆりさんの研修希望。
- ・カウンセリングもしてほしい。
- ・文化・宗教の違う留学生へのメンタリング
- ・研究室内の事例に則したメンターの役割・ふるまいについて教えてほしい。
メンター・・・教授，院生，PD などそれぞれ
- ・継続的なメンター養成を行っていかねば，一度だけの研修では身につかない。
- ・このような研修は是非，教授職の人全員に受けてほしい。学生のハラスメントをよく聞きます。
- ・グループワークの時間を増やしてほしい。
- ・2～3日間の講義・研修が出来れば，より理解ができると思う。
- ・特定の事案（学生指導等）に特化したメンター養成研修
- ・より深く学びたい。
- ・仕事にどのように反映できるか知りたい。
- ・午後のロールプレイ前に行った，1人が課題を出して，他の人が順に質問をしていく，それについて講師がコメントするという講義の時間が，もう少しあればよかった。
- ・事例検討
- ・「目からうろこ」の体験ができたこと。
- ・2日間の講習など，長いプログラムで行いたい。
- ・カウンセリングとコーチングの何が違うのか，ロールプレイで具体的に知りたいので，実践講座を受けてみたい。
- ・発問を創る演習の時間を長く取って欲しい。
- ・特異な職業である研究者に対する事例等を取り入れてもらいたい。
- ・研修に予算を投じるのであれば，WTT 教員給与を大幅に増額である。
- ・日本古来の「近所づきあい」の中で，現在期待されるコミュニケーションは立派に成り立っていたはず。このようなセミナーをやって「役に立った」と言うことは，そもそもズレていると思う。私にとっては「あまりにも当たり前」のこと過ぎて，なぜこんな研修が必要なのか，なぜ，この研修を有益と感じる人がいるのか理解できない。

IV-1 (3)

③ メンタリングに関するセミナー

メンタリングに関するセミナー

「大学におけるメンター事業の現状と課題：女性研究者のニーズに応える」

【1】趣旨

本学では、女性研究者のための研究サポート体制の一貫として、メンター事業の整備を行っている。平成21年度にはメンター養成研修を実施したが、実際にメンター事業を整備するに当たってはメンター事業に関する情報が不足していることが認識されていた。そのため、女性研究者支援において先行している東北大学及び新潟大学の事情に詳しい講師を招き、大学におけるメンタリング及びメンター事業について学ぶことを目的として開催した。

【2】プログラム

日時：平成22年11月11日（木）15：00～17：00

場所：本部棟第一会議室（6階）

対象：メンタリングに関心を持つ教職員

（注：管理的立場にある者、FD及び研修の関係者、「メンター」教員（候補）等）

内容：

1. 講演

講演Ⅰ：「東北大学における複数メンター制の取組について」

講師 田中 真美 東北大学大学院医工学研究科 教授（女性研究者支援推進室副室長）

講演Ⅱ：「新潟大学におけるメンターによる女性研究者支援について」

講師 三宅 恵子 岐阜大学男女共同参画推進室 特任准教授（前新潟大学女性研究者支援室特任准教授）

2. ディスカッション

司会 五福明夫 大学院自然科学研究科 教授（男女共同参画室員）

【3】実施報告

田中宏二理事（ダイバーシティ推進本部長）による開会挨拶の後、田中真美氏（東北大学大学院医工学研究科教授）が東北大学における複数メンター制について講演を行った。講演では、沢柳フェローと呼ばれる女性教授メンターと部局メンターからなる複数メンター制が女性教員のためのメンタリングにおいてどのように機能しているかについて、「杜の都ジャンプアップ事業 for 2013」の紹介とともに説明していただいた。

引き続き三宅恵子氏（岐阜大学男女共同参画推進室特任准教授）が前任校である新潟大

学におけるメンターによる女性研究者支援について講演を行った。三宅氏からは、新潟大学でのメンターによる支援制度の立ち上げの経緯に関してメンター養成、制度設計、制度周知の3つの側面の説明および、女性研究者に必要なサポートに関する提案をいただいた。

講演終了後、五福明夫教授（男女共同参画室 環境整備・支援推進部門長）の司会で30分間にわたりディスカッションが行われた。「女性教員だけがメンターとなるべきか」、「メンターとなるにはどの位の経験が必要か」といった率直な疑問が参加者から投げかけられた。

最後に沖陽子男女共同参画室長が閉会の挨拶をし、セミナーは終了した。

講演終了時に実施したアンケートの回収率(32.4%)はかなり低かったが、参加者の反応はおおむね良好であった。本学でメンター事業を整備するにあたってはまず学内でのメンタリングに関する周知が必要であるが、初めてのセミナーとしてはまずまずの成功であったといえる。しかしながら女性研究者を対象としたメンタリングに関するテーマのセミナーであったにもかかわらず、教員の参加が少なかったことは問題であるといえる。



三宅 恵子 岐阜大学男女共同参画推進室 特任准教授（前新潟大学女性研究者支援室特任准教授）



田中 真美 東北大学大学院医工学研究科 教授（女性研究者支援推進室副室長）



メンタリングに関するセミナー（平成22年11月11日実施） アンケート集計結果（回答者数 11人）

Q1 今回のセミナーへの参加は有意義でしたか。

- | | |
|---------------|----|
| 1 とても有意義だった | 7名 |
| 2 まあまあ有意義だった | 4名 |
| 3 あまり有意義でなかった | 0名 |
| 4 全く有意義でなかった | 0名 |

Q2 今回のセミナーにはどのような動機から参加されましたか。

- | | |
|-------------------|----|
| 1 講演テーマに関心があった | 4名 |
| 2 講師に関心があった | 1名 |
| 3 男女共同参画一般に関心があった | 4名 |
| 4 その他 | |
- ・参加を要請された。

Q3 次回以降もメンタリングに関するセミナーに参加したいですか。

- | | |
|-----------|----|
| 1 参加したい | 3名 |
| 2 参加したくない | 0名 |
| 3 テーマによる | 5名 |
| 4 日程による | 3名 |
| 5 その他 | |

Q4 次回以降のセミナーで聞いてみたいテーマを選んでください。

- | | |
|-----------------------------------|--------|
| 1 メンタリングの理論 | 3名 |
| 2 女性を対象としたメンタリング | 2名 |
| 3 海外の大学におけるメンター事業の現状 | 6名 |
| 4 海外の大学におけるメンター事業の現状 | (3と重複) |
| 5 企業におけるメンター事業の現状 | 6名 |
| 6 その他取り上げてほしいテーマがあれば、具体的にご記入ください。 | |
- ・理論というよりは、実施された例を話してもらい、本学の参考とするセミナーが良いと思う。

Q5 本日のセミナーの感想をご自由にお書きください。

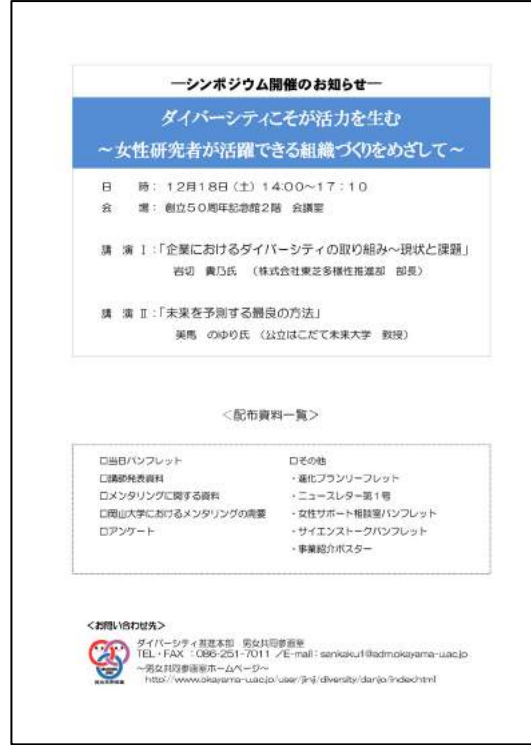
- ・教員の参加が少ない。
- ・新潟大学の現状（取り組み）は、大変参考になった。
- ・本学が取り組むにあたり、十分な内容だった。大変参考になったと思う。

メンタリングに関するセミナー パンフレット

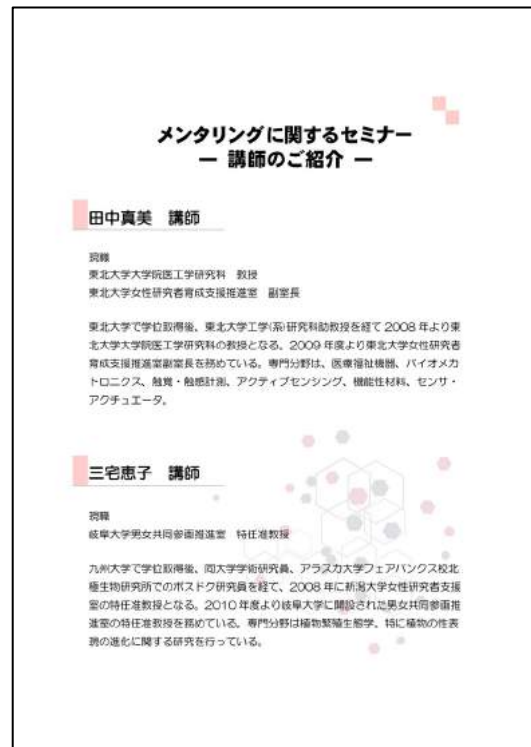
■表紙



■裏表紙



■プログラム



メンタリングに関するセミナー チラシ



文部科学省科学技術振興調整費女性研究者支援モデル育成
「学都・岡大発 女性研究者が育つ進化プラン」

メンタリングに関するセミナーのご案内

大学におけるメンター事業の現状と課題： 女性研究者のニーズに応える

日時 平成22年11月11日(木)15時～17時

場所 本部棟第一会議室(6階)

対象 メンタリングに関心を持つ教職員

- ・メンター教員及びメンター教員になる可能性がある方
- ・若手研究者に対してメンターの役割を果たすことに関心がある方
- ・教員としての資質向上(FD)に関わっている方あるいは関心がある方
- ・若手研究者の育成に関わっている方(専攻長、副専攻長等)

1. 講演

(1)「東北大学における複数メンター制の取組について」

講師：田中 真美氏
東北大学大学院医工学研究科 教授(女性研究者支援推進室副室長)

(2)「新潟大学におけるメンターによる女性研究者支援について」(仮題)

講師：三宅 恵子氏
岐阜大学男女共同参画室 特任准教授(前新潟大学女性研究者支援室)

2. ディスカッション

従来、我が国の大学において教員間でのメンタリングは一般的ではありませんでしたが、若手研究者が成長していく上で先輩教員とメンタリング関係を構築することの重要性が近年認識されております。これを踏まえて、男女共同参画室ではメンター(注1)養成研修を実施する等して、女性研究者のためのメンタリング(注2)が効果的に行われるように環境整備を進めております。また、女性研究者に限らず若手研究者を対象としたメンター事業を整備していくことを検討しております。

メンター事業整備の一貫として行われるこのセミナーは、女性研究者支援において先行している東北大学及び新潟大学の事情に詳しい講師を招き、大学におけるメンタリング及びメンター事業について学び、本学におけるメンター事業の構築に役立てることを目的として開催するものです。女性研究者のためのメンター事業だけでなく、大学教員のメンタリング一般に関心がある教職員の皆様の参加を歓迎します。

注1:メンターとは、仕事の仕方や取り組みなど、自分の経験をもとにメンティーと呼ばれる後輩に対して、指導・助言を行う先輩のことを指します。
注2:メンタリングとは、メンターがメンティーに対して一定期間継続して行うキャリア的及び心理・社会的支援のことを指します。

一お申込先一
各部署等庶務
担当係
締切:10月22日(金)



■お問い合わせ先■
ダイバーシティ推進本部男女共同参画室
TEL・FAX 086-251-7011
E-mail:sankaku1@adm.okayama-u.ac.jp



IV-1 (3) ④メンタリングに関する勉強会

【1】趣旨

メンタリングに関する勉強会は、男女共同参画室員および本学テニユア・トラック教員のメンター教員が大学におけるメンタリングについての理解を共有することを目的として企画された。さらに、若手教員の育成に責任ある立場にあるメンター教員に自由に意見交換を行っていただき、今後のメンター研修およびメンター事業の整備に役立てることも意図している。

メンタリングに関する勉強会は、メンター研修の内容を検討する過程で発案・企画された。我が国の大学における「メンター研修」では、メンターに必要とされるスキルの研修が行われることが多い。メンター事業を整備中である本学では、メンターとして何をすべきか自体が明確でなかったため、まずは「そもそもメンタリングとは何か」ということについて男女共同参画室員を始めとする関係教員が学ぶことが先決であると考えた。

本学では、既に「若手研究者の自立的な研究環境整備促進」事業として行われている「異分野融合先端研究コア」およびWTT制度においてテニユア・トラック教員が採用されており、テニユア・トラック教員1名に対して1～3名、合計25名のメンター教員が配置されている。勉強会の実施にあたっては、男女共同参画室員だけでなくテニユア・トラック教員のメンター教員を対象とすることとした。

【2】プログラム

	第1回メンタリングに関する勉強会	第2回メンタリングに関する勉強会
日時	<ul style="list-style-type: none"> ・平成22年12月16日(木) 13:00～14:00 ・平成22年12月21日(火) 13:00～14:00 ・平成22年12月22日(水) 13:00～14:00 (3回とも同一内容)	<ul style="list-style-type: none"> ・平成23年1月20日(木) 11:00～12:00 ・平成23年1月25日(火) 15:00～16:00 (2回とも同一内容)
場所	<ul style="list-style-type: none"> ・岡山大学 旧事務局 2階 ミーティングルーム (12月16日) ・岡山大学 入札室 (本部棟3階) (12月21日, 12月22日) 	①岡山大学 自然科学研究科棟 第1セミナー室
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・勉強会の趣旨説明 (5分間) ・メンタリングに関するアンケート回答 (10分間) ・メンタリングに関する説明「大学にお 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果の報告 (5分間) ・メンタリングの実践およびメンター事業の必要性に関するディスカッション (50分間)

	けるメンタリングについて」(30分間) ・岡山大学におけるメンター事業の説明 (5分間) ・質疑応答(10分間)	・アンケート回答(5分間)
実施者	五福明夫 環境整備・支援推進部門長(大学院自然科学研究科(工)教授) 保坂雅子 男女共同参画室 助教(特別契約職員)	

【3】実施報告

第1回メンタリングに関する勉強会

なるべく多くのメンター教員に参加していただくため同一内容で3回実施した。メンター教員15名に加えて男女共同参画室員10名が参加した。

五福明夫環境整備・支援推進部門長が勉強会の趣旨を説明した後、参加者に対してメンタリングに関する知識、メンター教員としての実践、感想、若手研究者に必要なこと、メンター観についてアンケート形式で尋ねた。その後、男女共同参画室保坂雅子助教が米国の大学において公式な事業として行われているメンタリングについて、留学経験も交えて説明を行った。最後に男女共同参画室で検討中の岡山大学におけるメンター事業について五福明夫部門長が説明した後、質疑応答を行った。

第2回メンタリングに関する勉強会

第2回勉強会では、第1回勉強会で実施したアンケート結果を報告し、これを踏まえてメンタリングの実践およびメンター事業の必要性について参加者の間で意見交換を行った。意見交換会では、メンター教員自身の活動を踏まえた率直なメンターとしての感想や講座制やテニユア・トラックといった若手研究者育成のあり方についての意見が活発に出された。第2回勉強会にはメンター教員9名および男女共同参画室員1名が参加した。

メンター教員の参加率(1回でも参加した者の割合)は72%であり、メンター教員の研修に対する関心は高いように見受けられた。また、忙しい教員のスケジュールを踏まえて1時間で実施したが、1時間では自由な意見交換会には少々短すぎるとの意見が寄せられた。

IV-1 (4) 研究スキルアップ講座の実施

研究スキルアップ講座の趣旨

研究スキルアップ講座は、主に若手の女性研究者を対象として企画されたもので、研究者が研究活動を遂行する上で共通に必要な知識やスキルの向上を目指し、専門家や研究者として活躍されている先輩方の話を聞く機会を提供することを目的としている。なお、講師の派遣及び企画については研究推進産学官連携機構の協力を得た。

IV-1 (4) ① 外部資金獲得講座

【1】プログラム

1. 日時：平成22年9月16日（木）
18:00～19:30
2. 会場：管理棟第7カンファレンスルーム（鹿田地区）
3. 参加者：本学の教職員および大学院生
4. 内容：

講演「科学研究費補助金申請書の書き方」

講師 阪田 祐作 研究推進産学官連携機構 研究推進本部長・名誉教授

話題提供「私の研究費獲得経験」

講師 池亀 美華 大学院医歯薬学総合研究科（歯） 准教授

大守 伊織 大学院医歯薬学総合研究科（医） 助教

【2】概要

外部資金獲得講座は、医歯薬学総合研究科及び保健学研究科の教員を主たる対象として鹿田地区で行われた。先ず、例年研究推進本部が実施している「科学研究費補助金申請書の書き方講習会」で講師を務めている阪田祐作研究推進産学官連携機構 研究推進本部長が、最新の情報を反映させた実践的な申請書の準備について1時間にわたり講演を行い、「年を取った偉い先生にも読んでもらえるように大きな字で書く」、「遠慮しないで自己アピールする」といった励ましを兼ねたアドバイスを提供された。

続いて開催の「私の研究費獲得経験」では、池亀美華大学院医歯薬学総合研究科准教授および大守伊織同研究科助教が、自らの研究費獲得に関する経験について話題提供した。池亀准教授は、研究費を獲得したことで研究者としての「自立・自由・自信」を獲得し、研究活動が活発化したと述べた。また、目的と目標を意義あるものにする、上手いかない時でも手を動かして研究すること、外部資金に応募することの重要性について述べた。大守助教は、複数のノウハウ本を紹介した上で、論文が出せない時に出来る研究活動として学会活

動への参加や総説の執筆，研究計画書作成の準備を行うことをアドバイスした。更に，不採択という失敗経験を乗り越える事の重要性については両名ともが強調した。

その後，参加者の間で質疑応答が行われた。なお，初めての鹿田地区での実施であったため，男女共同参画室の活動及び女性サポート相談室の紹介を閉会前に行った。



阪田 祐作名誉教授
(研究推進産学官連携機構
研究推進本部長)



池亀 美華准教授
(大学院医歯薬学総合研究科
(歯))



大守 伊織助教
(大学院医歯薬学総合研究科
(医))



外部資金獲得講座アンケート集計表

(セミナー修了後受付簿にメールアドレスを載せた方にメールで送付し、回収した8名について集計した)

質問1. 外部資金獲得セミナーは全体としてどうだったでしょうか？

- | | |
|--------------|-----|
| 1. よかった | (6) |
| 2. 普通 | (2) |
| 3. あまりよくなかった | (0) |

質問2. 外部資金獲得セミナーの以下の各項目についてはどうだったでしょうか？

A 講師

- | | |
|--------------|-----|
| 1. よかった | (7) |
| 2. 普通 | (1) |
| 3. あまりよくなかった | (1) |

B 資料

- | | |
|--------------|-----|
| 1. よかった | (7) |
| 2. 普通 | (1) |
| 3. あまりよくなかった | (0) |

C 会場・設備関係

- | | |
|--------------|-----|
| 1. よかった | (3) |
| 2. 普通 | (3) |
| 3. あまりよくなかった | (2) |

D 実施の時間帯

- | | |
|--------------|-----|
| 1. よかった | (7) |
| 2. 普通 | (1) |
| 3. あまりよくなかった | (0) |

E その他セミナーについてご感想があればお書き下さい。

- ・特に女性お二人の講師の方の率直なお話良かったです。些細なことですが、前方の机がコの字型になっているのは良くないと思います。画面を見るときに首が痛くなりました。後方のようにスライド画面と平行机を並べたほうが良いと思います。
- ・審査員経験者の先生の審査体験をふまえたお話があれば良かったと思います(最初の講師の方もそうでしたら、申し訳ありません)。

質問3. 男女共同参画室では類似のセミナーの実施を計画しております。

以下のそれぞれについてどのようにお考えですか？

- A 研究マネジメントについての講演
1. ぜひ参加したい (4)
 2. どちらともいえない (4)
 3. 興味がない (0)
- B 科研費申請書の書き方についての具体的指導 (ワークショップ形式)
1. ぜひ参加したい (3)
 2. どちらともいえない (4)
 3. 興味がない (1)
- C 高額研究費獲得者による経験談
1. ぜひ参加したい (2)
 2. どちらともいえない (5)
 3. 興味がない (1)
- D 女性研究者の研究活動・研究費獲得に固有の問題 (があるとすれば) に関する研究会
1. ぜひ参加したい (1)
 2. どちらともいえない (4)
 3. 興味がない (3)

質問4. その他、ご意見・ご感想がありましたらご自由にどうぞ。

- ・特にありません。
- ・昨年の評価については葉書による通知がありませんでした。どこかに評価結果がでているのでしょうか？お教え下さい。
- ・私個人的に予想していたよりも参加者数が少なかったです
- ・(セミナーは全体としてどうでしたかという質問に対して「普通」と回答) 坂田先生のお話は8月に聞いていたので。
- ・事前に参加の申し込みをしていたのに、スナック等いただけなかったのは残念です。

外部資金獲得セミナーチラシ (1 ページ)

文部科学省科学技術振興機構若手女性研究者支援モデル育成
「学研・研大発」女性研究者が育つ進化プラン

外部資金獲得セミナー

<日時> 平成22年9月16日(木)
18:00~19:30
<場所> 管理棟
第7カンファレンスルーム(6階)

18:00-18:50 **科学研究費補助金申請書の書き方**
研究推進産学官連携機構
研究推進本部長
名誉教授 坂田 祐作 先生

18:50-19:10 **私の研究費獲得経験**
大学院医歯薬学総合研究科(歯)
准教授 池亀 美華 先生
大学院医歯薬学総合研究科(医)
助教 大守 伊織 先生

19:10-19:30 **質疑応答**

学生会・大学院生も参加歓迎!

平成23年度科学研究費補助金申請書の書き方講習会を開き逃した方に所蔵!

平成23年度科学研究費補助金申請書の書き方講習会を開き逃した方に所蔵!

お申込み先
国立大学法人岡山大学
ダイバーシティ推進本部若手女性共同参画室
TEL/FAX: 086-251-7011
E-MAIL: sachiko@ipadm.okayama-u.ac.jp
URL: <http://www.okayama-u.ac.jp/area/1/12/5/05c3c19/d0a0b>

司会 大学院医歯薬学総合研究科
産学人キャリアセンター・地域産学人材育成講座
教授 片岡 仁美(男女共同参画室室員)

外部資金獲得セミナーチラシ (2 ページ)

文部科学省科学技術振興機構若手女性研究者支援モデル育成
「学研・研大発」女性研究者が育つ進化プラン

外部資金獲得セミナー

日時 平成22年9月16日(木)18:00~19:30
場所 管理棟第7カンファレンスルーム(6階)

18:00-18:50 **科学研究費補助金申請書の書き方**
研究推進産学官連携機構
研究推進本部長
名誉教授 坂田 祐作 先生

18:50-19:10 **私の研究費獲得経験**
大学院医歯薬学総合研究科(歯)
准教授 池亀 美華 先生
大学院医歯薬学総合研究科(医)
助教 大守 伊織 先生

19:10-19:30 **質疑応答**

学生会・大学院生も参加歓迎!

平成23年度科学研究費補助金申請書の書き方講習会を開き逃した方に所蔵!

平成23年度科学研究費補助金申請書の書き方講習会を開き逃した方に所蔵!

お申込み先
国立大学法人岡山大学
ダイバーシティ推進本部若手女性共同参画室
TEL/FAX: 086-251-7011
E-MAIL: sachiko@ipadm.okayama-u.ac.jp
URL: <http://www.okayama-u.ac.jp/area/1/12/5/05c3c19/d0a0b>

司会 大学院医歯薬学総合研究科
産学人キャリアセンター・地域産学人材育成講座
教授 片岡 仁美(男女共同参画室室員)

IV-1 (4) ②研究シーズの知的財産化

【1】プログラム

1. 日時：平成23年1月21日(金)
16:00~17:30
2. 会場：自然科学研究科棟 第1講義室
3. 参加者：本学の教職員および大学院生
4. 内容：

講演1：「岡山大学の知財戦略と研究者心得としての特許」

講師：渡邊 裕 研究推進産学官連携機構 副機構長・知的財産本部長 教授

講演2：「学外との積極的な交流による研究の推進について」

講師：富田 栄二 大学院自然科学研究科(工) 教授

質疑応答

【2】概要

主として津島地区の若手女性研究者を対象として、研究者にとっての知的財産および共

同研究に関するセミナー「研究シーズの知的財産化」を開催した。セミナー開始に当たっては、沖陽子男女共同参画室長より挨拶があった。

まず、東芝での研究経験を持つ研究推進産学官連携機構の副機構長・知的財産本部長である渡邊裕教授が本学の知的財産に関する現状と今後の戦略および研究者として心得ておくべき特許に関する知識について講演をされた。次に、動力熱工学分野が専門の大学院自然科学研究科（工）の富田栄二教授が、ご自身の研究活動における海外の大学や企業の交流経験や、交流する上でのメリットや留意点について講演をされた。

寒い中にもかかわらず集まった参加者からは、大学の知的財産に関する方針や企業と共同研究する理由について質問が投げかけられた。また、企業との共同研究を行うにあたっては研究分野によって事情が異なる事などについて議論が弾んだ。



渡邊 裕教授
(研究推進産学官連携機構
副機構長・知的財産本部長)



富田 栄二教授
(大学院自然科学研究科（工）
教授)



質疑応答

研究スキルアップ講座第2弾「研究シーズの知的財産化」に関するアンケート単純集計表
(8名より回収)

質問1. 本日の講座は全体としていかがだったでしょうか？

- | | |
|--------------|-----|
| 1. よかった | (6) |
| 2. 普通 | (2) |
| 3. あまりよくなかった | (0) |

質問2. 本日の講座は以下の各項目についていかがだったでしょうか？

A 講師

- | | |
|--------------|-----|
| 1. よかった | (8) |
| 2. 普通 | (0) |
| 3. あまりよくなかった | (0) |

- B 資料
1. よかった (5)
 2. 普通 (3)
 3. あまりよくなかった (0)
- C 会場・設備関係
1. よかった (1)
 2. 普通 (3)
 3. あまりよくなかった (4)
- D 実施の時間帯
1. よかった (4)
 2. 普通 (3)
 3. あまりよくなかった (1)

質問3. 男女共同参画室では研究スキルアップ講座を実施することを計画しております。

以下のテーマについていかがお考えでしょうか？


- A 研究マネジメント
1. ぜひ参加したい (4)
 2. どちらともいえない (4)
 3. 興味がない (0)
- B 科研費申請書の書き方
1. ぜひ参加したい (3)
 2. どちらともいえない (4)
 3. 興味がない (1)
- C 外部資金獲得
1. ぜひ参加したい (5)
 2. どちらともいえない (2)
 3. 興味がない (1)
- D 英語運用力獲得
1. ぜひ参加したい (6)
 2. どちらともいえない (2)
 3. 興味がない (0)
- E 共同研究・知的財産
1. ぜひ参加したい (4)
 2. どちらともいえない (4)
 3. 興味がない (0)

質問4. その他、ご意見・ご感想がありましたらご自由にどうぞ。

- ・多くの質問に答えていただきましてありがとうございました。
- ・グラフの色が区別できなくなるので、資料はカラーであった方が良かったです。
- ・実施の時間帯は（私にとっては）朝がよい。

研究シーズの知的財産化チラシ

文部科学省科学技術振興調整費女性研究者支援モデル育成
「学都・岡大発 女性研究者が育つ進化プラン」



研究スキルアップ講座 第2弾

研究シーズの知的財産化


<日時>
平成23年1月21日(金)16:00～17:30

<場所>
自然科学研究科棟 第1講義室

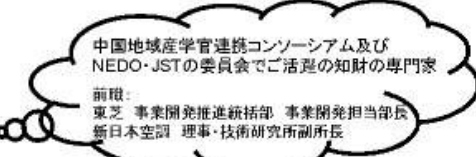
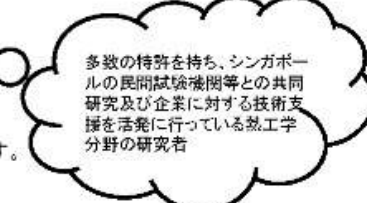
<対象>
知的財産に関心がある教職員及び大学院生

<定員>
50名(先着順・無料)

男性も歓迎



*****プログラム*****

16:00- 16:40	岡山の知財戦略と研究者心得としての 特許	 <p>中国地域産学官連携コンソーシアム及び NEDO・JSTの委員会で活躍の知財の専門家 前職： 東芝 事業開発推進統括部 事業開発担当部長 新日本空調 理事・技術研究所副所長</p>
16:40- 17:00	学外との積極的な交流による研究の推進に ついて	
17:00- 17:30	質疑応答	 <p>多数の特許を持ち、シンガポールの民間試験機関等との共同研究及び企業に対する技術支援を活発に行っている理工学分野の研究者</p>
	* 事前に質問を受け付けております。	

研究スキルアップ講座 第3弾

共同研究の心得(仮題)

講師：
研究推進学官連携機構
産学官連携本部長・准教授 藤原貴典先生 他
平成23年3月鹿田地区にて実施予定*

お申込み先

国立大学法人岡山大学
ダイバーシティ推進本部男女共同参画室
TEL/FAX: 086 251 7011
E-MAIL: sankaku1@adm.okayama-u.ac.jp

IV-2 調査による実態の把握

(1) 岡山大学の男女共同参画に関するアンケート調査

1) 調査の概要

①調査の目的

本調査は、平成 21 年度文部科学省科学技術振興調整費女性研究者支援モデル育成「学都・岡大発 女性研究者が育つ進化プラン」(以下、「進化プラン」とする)の活動の一環として、本学の女性研究者のみならず、すべての教職員・学生が、性別にかかわらずその能力を十分に活かし、充実した職務・研究を遂行できるような環境を整える上で必要な取り組みを明らかにすることを目的として実施した。

②調査の組織

本調査は、岡山大学ダイバーシティ推進本部男女共同参画室の室員のうち、以下の 3 名によるワーキンググループが中心となって調査票を作成した。

氏 名	所 属	職名
中谷 文美 (責任者)	大学院社会文化科学研究科	教授
五福 明夫	大学院自然科学研究科	教授
片岡 仁美	大学院医歯薬学総合研究科	教授

調査票の印刷、データ入力、集計・グラフ出力作業は(株)広和印刷に委託して行った。集計結果の分析は上記 3 名が行ったほか、自由記述の分析は保坂雅子特任助教(男女共同参画室)、グラフ加工作業は門脇孝弘技術職員(男女共同参画室)が担当した。

③調査の対象

①に掲げた目的を果たすため、平成 21 年 10 月現在本学に在籍する全教職員・大学院生を対象とした。具体的には、常勤の全教職員、半年以上継続して勤務する全非常勤職員(いずれも岡山大学病院勤務者を含む)、大学院生・研究生・ポスドク(いずれも留学生を含む)に対し、全数調査を行った。その際、それぞれの属性に応じた質問内容を用意するため、教員用、大学院生用、職員用の 3 種類の調査票を用いた。

それぞれの調査票の配布数は、教員分 1,893、大学院生分 2,939、職員分 2,373 である。

④調査の方法・実施時期

各学部の庶務係、大学院係等ならびに指導教員の協力を得て、属性別の 3 種類の調査票を配布した。調査票は返信用封筒に入れ、各部局に設けた回収箱および学内便によって回収した。

調査票の配布は平成 21 年 10 月末から開始し、年齢などについては平成 21 年 11 月 1 日現在の実状について回答を依頼した。回答の提出期限は同年 11 月 18 日までとしたが、11

月末までの到着分を集計の対象としている。

⑤調査項目

調査項目は、先行調査としてすでに結果が公表されている京都大学（「京都大学男女共同参画推進に関する意識・実態調査」）、早稲田大学（「研究者養成のための男女平等プランに関する調査（1）～（5）」などのほか、「岡山大学生のジェンダー意識に関する調査」をはじめ学内で実施済みの同種のアンケート調査の内容も参照し、ワーキンググループおよび男女共同参画室会議での議論を踏まえて決定した。主な項目は以下の通りである。

(A) 仕事・職場環境について [教員・職員対象]

週平均勤務時間、プラス3時間の使い方、職務上の処遇の男女差

(B) 仕事・研究と生活の両立支援について [教員・職員・大学院生対象]

有効な支援策、個人的ニーズの有無、必要とする支援

(C) キャリア形成について [大学院生・職員対象]

進学希望、昇任希望の有無

(D) 男女共同参画の現状と意識について [教員・大学院生・職員対象]

男女比率の偏りの背景要因、性別役割分業意識、女性研究者支援事業の必要性、男女共同参画への取り組みの必要性、男女共同参画室の認知度

2) 実施結果および結果の公表について

①調査票の配布・回収状況

職員、教員、大学院生を対象とする3種類の調査票の配布数、回収数の部局別集計は次の表の通りである。回収率はそれぞれ、職員が66.7%、教員が42.4%、大学院生が38.4%であった。

部局別配布・回収状況一覧

	所 属	配布数	回収数	回収率 (%)
教 員	教育学研究科	123	57	46.3
	社会文化科学研究科	144	48	33.3
	自然科学研究科	330	197	59.7
	保健学研究科	66	30	45.5
	環境学研究科	70	32	45.7
	法務研究科	20	5	25.0
	医歯薬学総合研究科	293	218	74.4
	大学病院	606	114	18.8

	全学センター・その他	241	67	27.8
		(所属未回答)	34	
	合計	1,893	802	42.4
大学院生	教育学研究科	191	70	36.6
	社会文化科学研究科	263	86	32.7
	自然科学研究科	1,199	506	42.2
	保健学研究科	116	47	40.5
	環境学研究科	250	124	49.6
	医歯薬学総合研究科	764	207	27.1
	法務研究科	156	81	51.9
		(所属未回答)	8	
	合計	2,939	1,129	38.4
職員	合計	2,373	1,582	66.7

②単純集計及びクロス集計に基づいた分析

質問票の設問ごとの回答の単純集計結果は男女共同参画室のホームページに掲載している。(URL : <http://www.okayama-u.ac.jp/user/jinji/diversity/danjo/annketo.html>)

より詳しい分析結果については、『学都 岡大発 女性研究者が育つ進化プラン』事業成果中間報告書【別冊】を参照頂きたい(平成23年4月 ホームページ掲載予定)。